[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] $y = ax + b$

[illegible]

電友社編輯部編纂

電氣工作物規程

全

東京新橋 電友社發行

電氣工作物規程

（大正八年十月十三日
遞信省令第八十五號）

目次

電氣工作物規程

第一編　本則

第一章　總則

第一節　通則

第一條　電氣工作物ノ施設及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　發電所トハ發電機、原動機其ノ他機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル所ヲ謂フ

二　變電所トハ發電所、蓄電所又ハ他ノ變電所ヨリ送電セラルル電氣ヲ更ニ送電又ハ配電スル爲構內ニ設備セル機械器具ニヨリ變成スル所ヲ謂フ

三　蓄電所トハ發電所、變電所以外ノ場所ニ於テ蓄電池其ノ他ノ機械器具ヲ設備シ電氣ヲ充電及放電スル所ヲ謂フ

四　開閉所トハ發電所、變電所、蓄電所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲構內ノ設備ニ依リ電路ヲ開閉スル所ヲ謂フ

五　電線トハ强電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ

六　電路トハ發電機其ノ他ノ機械、器具、電線、大地等ニシテ强電流電氣ノ通スル一全路ヲ謂フ

七　電線路トハ電線及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

八　送電線路トハ發電所、變

九　電所又ハ蓄電所相互間ヲ連絡スル電線路ヲ謂フ

十　配電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所ヨリ他ノ發電所、變電所又ハ蓄電所ヲ經過セス需用場所ニ至ル架空電線ヲ謂フ

十一　饋電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所ヨリ他ノ發電所、變電所又ハ蓄電所ヲ經過セスシテ電車線ニ至ル電線路ヲ謂フ

電車線路トハ電車線及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

十二　架空引込線トハ配電幹線ヨリ分岐シ需用場所ノ構外ニ於ケル支持物ヲ經過セスシテ需用場所ニ至ル架空電線ヲ謂フ

十三　地中引込線トハ配電幹線ヨリ分岐シテ直接需用場所ニ至ル地中電線ヲ謂フ

十四　弱電流電線トハ電信線、電話線、電氣信號線、其ノ他弱電流電氣ヲ使用スル電氣導體ヲ謂フ

十五　電壓トハ電線相互間又ハ電線ト大地トノ間ニ於ケル電位ノ差ヲ謂フ

十六　低壓トハ電流ニ在リテハ六百「ヴォルト」、交流ニ在リテハ三百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

十七　高壓電壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ三千五百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

十八　特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

十九　地中管路トハ地中ニ施設セル電線路、弱電流電線及之ヲ保藏スル管、瓦斯管、水道管、下水管、空氣管並之ニ附屬スル地中函及接續函等ヲ謂フ

第三條　電氣事業者ハ五年間本令ノ規定ニ依ル記錄書類ヲ保存スルコトヲ要ス

第二節　機械及器具

第四條　發電機、電動機、電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機等ハ其ノ最大使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ其ノ發

電子線輪又ハ電動子線輪ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス

星形ニ結線セル發電機又ハ變壓器ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セサル電氣抵抗ヲ通シテ接地セル場合ニ於テハ其ノ電路ニ接續スル特別高壓用ノモノニ限リ前項ノ試驗電壓ヲ其ノ最大使用電壓ノ一・二五倍迄輕減スルコトヲ得

前項ノ接地抵抗ハ其ノ電路ノ一部ニ地氣ヲ生セル場合ニ於テ此ノ部分ヲ自働的ニ遮斷スルニ足ル電流ヲ中性點ニ通シ得ルモノナルコトヲ要ス

第五條　變壓器ノ線輪ハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル絶縁耐力試驗ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓ノモノニ在リテハ其ノ線輪ト他ノ線輪、鐵心及外函トノ間ノ絶縁耐力ヲ交流千「ヴオルト」ニテ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ二十五「ヴオルト」下ノ低壓ノモノニ在リテハ交流五百「ヴオルト」ニテ試驗スルモノトス

二　高壓ノモノニ在リテハ其ノ線輪ト他ノ線輪、鐵心及外函トノ間ノ絶縁耐力ヲ最大使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ五百「ヴオルト」以下ノ高壓ノモノニ在リテハ交流千「ヴオルト」ニテ試驗スルモノトス

三　特別高壓ノモノニ在リテハ左ノ區別ニ依ル試驗電壓ヲ以テ其ノ線輪ト他ノ線輪、鐵心及外函トノ間ノ絶縁耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

最大使用電壓　試驗電壓

(イ)五千「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ二倍

(ロ)五千「ヴオルト」以上一萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ニ五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

(ハ)一萬「ヴオルト」以上五萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ一倍半

(ニ)五萬「ヴオルト」以上　最大使用電壓ニ二萬五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

星形ニ結線セル發電機又ハ變壓器ノ中性點ヲ前條第三項ニ適合スル電氣抵抗ヲ通シテ接地セル場合ニ於テハ其ノ電路

ニ接續スルモノニ限リ前項第三號ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使用電壓	試驗電壓
(イ)五千「ヴォルト」以上	最大使用電壓ノ一倍半
(ロ)五千「ヴォルト」以上一萬「ヴォルト」未滿	最大使用電壓ニ二千五百「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ
(ハ)一萬「ヴォルト」以上五萬「ヴォルト」未滿	最大使用電壓ノ一・二五倍
(ニ)五萬「ヴォルト」以上	最大使用電壓ニ一萬三千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

第六條　特別高壓用變壓器ハ發電所又ハ變電所內ニ設置スルコトヲ要ス但シ公衆ニ危險ヲ及ホササル樣特殊ノ施設(細則第六條參照以下細則參照ノ場合ニハ細第何條ト記載ス)ヲ爲セル場合又ハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　發電機、電動機、電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機等ノ鐵臺及變壓器ノ外函(外函ナキ場合ニハ鐵心)ハ第一種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス但シ危險ヲ生セシメサル適當ノ施設(細第七條)ヲ爲セル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　開閉器、自働遮斷器、

避雷器等電路ニ裝置スル器具ハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル絕緣耐力試驗ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓又ハ高壓ノモノニ在リテハ使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ其ノ電氣ノ通スル部分ト大地トノ間ノ絕緣耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

二　特別高壓ノモノニ在リテハ左ノ區別ニ依ル試驗電壓ヲ以テ其ノ電氣ノ通スル部分ト大地トノ間ノ絕緣耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

最大使用電壓	試驗電壓
(イ)五萬「ヴォルト」未滿	最大使用電壓ノ一倍半
(ロ)五萬「ヴォルト」以上	最大使用電壓ニ二萬五千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

星形ニ結線セル發電機又ハ變壓器ノ中性點ヲ本則第四條第三項ニ適合スル電氣抵抗ヲ通シテ接地セル場合ニ於テハ其ノ電壓ニ接續スルモノニ限リ前項第二號ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使用電壓	試驗電壓
(イ)五萬「ヴォルト」未滿	最大使用電壓ノ一・二五倍

(ロ)五萬「ヴォルト」以上　最大使用電壓ニ一萬三千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

第九條　開閉器ハ電壓中ノ必要ナル箇所ニ於テ特殊ノ場合(細第八條)ヲ除クノ外其ノ各極ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

第十條　機械器具及電壓ヲ保護スル爲特別ノ規定ニ依ル場合(細第九條)ヲ除クノ外自働遮斷器ヲ電壓ノ各極ニ裝置スルコトヲ要ス

地線及多線式ノ中性線ニハ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ス

第十一條　檢漏器(細第十條)及避雷器(細第十一條)ハ電路中必要ナル箇所ニ適當ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

第十二條　特別高壓用開閉器、自働遮斷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具又ハ特別高壓電氣ヲ以テ充電スル器具及電壓ハ危險ノ虞ナキ樣裝置スルコトヲ要ス(細第十二條)

第十三條　非包裝可熔片ハ定格電流ノ一・二五倍ノ電流ニ耐ヘ一定時間以內ニ一定電流ニ依リ確實ニ熔斷スルモノナルコトヲ要ス(細第十三條)

非包裝可熔片ニハ特殊ノモノ(細第十四條)ヲ除キ硬キ金屬製ノ端片ヲ附著スルコトヲ要ス

第三節　電線、電壓及附屬設備

第十四條　絕緣電線ハ使用電流ニ因ル溫度上昇ノ爲絕緣物ヲ損セサルモノナルコトヲ要ス(細第十八條)

第十五條　絕緣電線ハ被覆ノ種類、構造及使用ノ目的ニ依リ第一種絕緣電線、第二種絕緣電線、第三種絕緣電線及第四種絕緣電線ノ四種トシ其ノ仕樣ハ細則ニ定ムル標準ニ適合スルモノナルコトヲ要ス(細第七十條)

第十六條　可撓紐線ハ被覆ノ種類、構造及使用ノ目的ニ依リ第一種可撓紐線、第二種可撓紐線、第三種甲可撓紐線及第三種乙可撓紐線ノ四種トシ其ノ仕樣ハ細則ニ定ムル標準ニ適合スルモノナルコトヲ要ス(細第七十一條乃至細第七十五條)

第十七條　電路ハ單線式電氣鐵道ノ場合及本則第十八條ノ規

定ニ依リ變壓器ノ二次線ヲ接地スル場合ヲ除クノ外全部大地ヨリ充分ニ絶縁スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十八條　高壓電路ト低壓電路トノ電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲變壓器二次線ノ中性點ニ於テ第二種地線工事ヲ施スカ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スル他ノ保安裝置ヲ施スコトヲ要ス（細第十九條及細第二十條）

變壓器ノ構造又ハ配電方法ニ依リ其ノ中性點ヲ接地シ難キトキハ二次線ノ變壓二百五十「ヴォルト」以下ノモノニ限リ其一端ヲ接地スルコトヲ得

第一項ノ地線工事ノ地線ト大地トノ電氣抵抗ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第十九條　特別高壓電路ト高壓電路又ハ低壓電路ト電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スル他ノ保護裝置ヲ施スコトヲ要ス

一　高壓電路ニ對シテハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ放電スヘキ適當ナル裝置

最大使用電壓	放電電壓
(イ)千「ヴォルト」未滿	最大使用電壓ノ約二倍以下
(ロ)千「ヴォルト」以上千四百「ヴォルト」未滿	約二十「ヴォルト」以下
(ハ)千四百「ヴォルト」以上	最大使用電壓ノ約一倍半以下

二　低壓電路ニ對シテハ前條ノ規定ニ依ル保安裝置

三　第一種地線工事ニ依リ接地シタル金屬板ヲ以テ一次線輪ト二次線輪ヲ離隔スル方法但シ變壓器以外ニ於テ相互ニ電氣的接觸ノ虞アル場合ニハ此ノ方法ニ依ルコトヲ得ス

第二十條　地線工事ハ左ノ三種トス(細第二十一條)

第一種地線工事　地線ニハ「ビー、エス」十番以上ノ銅線又ハ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線ヲ用ヒ且地板ト大地トノ電氣抵抗ヲ十「オーム」以下ニ保持スルモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノ

第二種地線工事　地線ニハ前號ノ金屬線ヲ用ヒ且地線ト大地トノ電氣抵抗ハ地線ト大地トノ間ニ於ケル電壓ヲ百五十「ヴォルト」以下ニ保持スルモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノ

第三種地線工事　地線ニハ第一號ノ金屬線ヲ用ヒ且地板ト大地トノ電氣抵抗ヲ百「オーム」以下ニ保持スルモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノ

地線工事ヲ施スヘキ場合ニ於テ工事上已ムヲ得サルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第四節　電線路

一　低壓及高壓架空電線路

第二十一條　市街地ノ道路ニハ電車線路ヲ除クノ外二箇以上ノ架空電線路ヲ建設スルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十二條　市街地ニ於テ道路ニ沿ヒ道路以外ニ電線路（電車線路ヲ除ク）ヲ建設セムトスルトキハ特ニ遞信大臣ノ認

可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十二條　市街地ニ於テ道路ニ沿ヒ道路以外ニ電線路（電車線路ヲ除ク）ヲ建設セムトスルトキハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ヲ除クノ外道路ヨリ水平距離八尺以内ニ接近セシムルコトヲ得ス

第二十三條　市街地ノ道路ニ建設スル架空電線路ハ架空弱電流電線路トノ交叉數ヲ最小ニシテ且左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス但シ工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニ限リ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得（細第二十三條）

一　道路ノ兩側ニ跨ラスシテ其ノ一側ニノミ架設スルコト但シ交通ニ支障ナキ樣施設セル水平支線ハ此ノ限ニ在ラス

二　道路ノ一側ニ架空弱電流電線路アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト

三　一電線路ノ幅員（幅員ニハ支柱支線ヲ含マス以下之ニ同シ）ハ九尺ヲ超過セシメサルコト

四　電柱ハ八十度以下ニ傾斜

セシメサルコト

本條ノ規定ハ電車線路ニ之ヲ適用セス

第二十四條　電柱ニハ事業者ノ記號、電柱番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

高壓架空電線ヲ支持スル腕木又ハ碍子ハ適當ナル方法（細第二十四條）ニ依リ其ノ高壓タルコトヲ表示スルコトヲ要ス

第二十五條　電柱ハ他ノ架空電線路又ハ架空弱電流線路ヲ貫通シテ之ヲ建設スルコトヲ得ス

電線ハ添架ノ場合ヲ除クノ外他人ノ電柱ヲ挾ミテ之ヲ架渉スルコトヲ得ス

第二十六條　架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　架空電線ニハ電車線ヲ除クノ外左ノ强サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス（細第十五條）

一　低壓「ビー、エス」十番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル電線但シ低壓ノ引込線又ハ架空連接引込線ニハ其ノ電線支持點間ノ距離六十尺以下ノ場合ニ限リ「ビー、エス」十二番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ得

二　高壓「ビー、エス」六番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル電線

第二十八條　架空電線ニハ其ノ使用電壓ニ從ヒ左ニ掲クル絶緣電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ電車線其ノ他本令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

使用電壓	絶緣電線ノ種類
一　三百「ヴォルト」以下	第二種絶緣電線
二　三百「ヴォルト」ヲ超過スル直流低壓	第二種絶緣電線
三　高壓	第三種絶緣電線

第二十九條　高壓又ハ三百「ヴォルト」ヲ超過スル直流低壓架空電線路ニシテ本則第四十四條ニ規定セル電線ヲ使用シ且架空弱電流電線トノ混觸ヨリ生スル危險ヲ防止スル爲適當ノ施設（細第二十五條、細第二十六條及細第二十七條）ヲ爲ストキハ前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條　市街地以外ニ於テ左ノ各號ニ依リ施設スル低壓又ハ高壓架空電線ニハ裸電線ヲ使用スルコトヲ得

一　道路（交通頻繁ナラサル道路ヲ除ク以下之ニ同シ）鐵道、軌道、他ノ架空電線、架空弱電流電線又ハ建造物（人ノ住居又ハ看守スル邸宅建造物ヲ謂フ以下之レニ同シ）ヨリ其ノ架空電線ニ使用スル電柱地表上ノ高サ以上ノ水平距離ヲ隔テテ架設スルコト

但シ本則第四十四條ニ適合スル電線ヲ使用シ本則第四十七條及第四十九條第三項ニ依リ施設スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　道路、鐵道又ハ軌道ト交叉スル箇所ニ於テハ前號但書ニ依リ施設シ且電線路ノ方向ニ於テ電柱（鐵塔ヲ除ク）ニ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ設クルコト

三　低壓又ハ高壓架空被覆電線又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ裸電線ヲ他ノ上部トシ前號ノ工事方法ニ依リ施設シ且電線相互ノ接觸ヲ豫防スル爲適當ノ施設（細第二十八條）ヲ爲スコト

市街地以外ニ於テ低壓又ハ高壓架空電線カ同一事業者ニ屬スル左ノ架空電線又ハ架空電話線ト交叉又ハ接近スル場合ニハ前項ノ制限ニ依ラス裸電線ヲ使用スルコトヲ得

一　電路ノ一部ヲ接地セル低壓又ハ高壓電線

二　特別高壓架空電線路ニ添架セル電話線及直接之ト接續セル電話線

土地ノ狀況ニ依リ又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ依ラス裸電線ヲ使用スルコトヲ得

第三十一條　架空電線ノ地表上ノ高サ及造營物トノ間隔ハ電車線ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ニハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　道路ヲ横斷スル場合ニ於テハ地表上二十尺以上但シ市街地以外ニ於テハ交通ニ支障ナキ樣施設セル低壓引込線ニ限リ十六尺以上

二　鐵道又ハ軌道ヲ横斷スル

場合ニ於テハ軌條面上二十尺以上

三　前二號以外ノ場所ニ於テハ地表上十六尺以上

四　造營物ノ側面ニ於テハ造營物ト電線トノ距離四尺以上

五　造營物ノ上部ニ於テハ造營物ト電線トノ距離六尺以上

低壓架空引込線ニシテ工事上已ムヲ得ザル場合ハ需用場所ニ於ケル取附點ニ於テ前項第一號及第三號ノ制限ヲ交通ニ支障ナキ限リ其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ高サ迄輕減スルコトヲ得

使用電壓	取附點
交流百五十ヴォルト直流三百ヴォルト未滿	八尺
交流百五十ヴォルト直流三百ヴォルト以上	十二尺

第一項第四號及第五號ノ制限ハ危險ノ虞ナク且工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ引込線ト之ヲ直接引込メル造營物ニ付之ヲ適用セス

第三十二條　同一電柱ニ架設スル高壓架空電線ト低壓架空電線トハ一尺五寸以上離隔シ且別箇ノ腕木ニ架設スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ樣取附

ケタル電線（細第二十九條）ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　支持物ヲ共用スル二事業者以上ノ低壓又ハ高壓架空電線路ハ左ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依ルモノハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　低壓電線ハ之ヲ高壓電線ノ下部ニ架設スルコト但シ「ビー、エス」四番以上ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　高壓低壓毎ニ各所屬ノ腕木ヲ區劃シ色別其ノ他ノ方法ヲ以テ其所有者ヲ明ニスルコト

三　同一地域ニ於テハ一事業者ノミ引込線ヲ分岐スルコト

第三十四條　支持物ヲ異ニスル低壓又ハ高壓架空電線相互間ノ交叉又ハ接近距離ハ三尺以上トス但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ距離ヲ一尺五寸迄短縮スルコトヲ得

低壓又ハ高壓架空電線ト他ノ電線路ノ電柱、腕木又ハ竹木其ノ他ノ植物トノ間隔ハ一尺以上トス但シ接觸ノ虞ナキ樣施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　高壓架空電線ヲ煙突又ハ之ニ類スル工作物ニ接近シテ施設スル場合ニ於テ該工作物ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　高壓架空電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ四尺以上ヲ離隔スルコト

二　金屬製煙突及煙突ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

第三十六條　高壓架空電線ト架空弱電流電線トノ交叉部分ニ於テハ高壓電線ヲ上部ト爲スコトヲ要ス但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第三十七條　高壓架空電線路ト道路、鐵道、軌道、他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路トノ交叉部分ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　電柱間ノ距離ハ百五十尺以下ナルコト但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

二　電線ノ弛度ハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ五以上トシ電線ノ重量ヲ支持シ得ル樣計算シタルモノナルコト

三　電柱ノ强サハ風壓ヲ電線路ト直角ノ方向ニ於テ人家連檐ノ場所ニ在リテハ垂直面ニ對シ一平方呎ニ付二十封度圓壔形面積ニ對シ其ノ垂直投影面積一平方呎ニ付電線ニ在リテハ十封度電柱ニ在リテハ十二封度其ノ他ノ場所ニ在リテハ垂直面ニ對シ一平方呎ニ付四十封度圓壔形面積ニ對シ其ノ垂直投影面積一平方呎ニ付電線ニ在リテハ二十封度電柱ニ在リテハ二十四封度安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト（細第三十條）

四　木柱ノ太サハ末口ノ直徑五寸以上ナルコト但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テ

二本以上ノ木材ヲ組合セテ使用スルトキハ此ノ制限ヲ四寸迄輕減スルコトヲ得

第三十八條　架空電線ト架空弱電流電線トノ交叉又ハ接近距離ハ三尺以上ト爲スコトヲ要ス但シ當該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及架空引込線、架空連接引込線ニシテ工事上已ムヲ得サルモノニ限リ此ノ距離ヲ二尺迄短縮スルコトヲ得

第三十九條　架空電線路ハ左ノ絶縁抵抗及絶縁耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓電路ノ絶縁部分ト大地トノ間ノ絶縁抵抗（屋内電路ヲ含有スルト否トニ拘ラス）ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメサル樣保持スルコト

二　高壓電線路（電柱上ノ變壓器ヲ含ム）ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ架空電線（接續部分ヲ含ム）ノ場合ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地ト

ノ間ノ絶縁耐力ヲ試驗スルモノトス

第四十條　架空電線ト他ノ架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ八尺以内ノ距離ニ接近シテ架設セムトスルトキハ其ノ工事着手ノ前日迄ニ建設ノ場所及日時ヲ關係管理者ニ通知シ立會ヲ求ムヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理又ハ撤去セムトスルトキ亦同シ但シ關係管理者ニ於テ豫定ノ日時ニ立會ヲ爲ササルトキハ直ニ工事ヲ施行スルコトヲ得

二　特別高壓架空電線路

第四十一條　特別高壓架空電線路ハ市街地其ノ他人家ノ稠密ナル地ニ建設スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四十二條　特別高壓電線路ハ既設架空弱電流電線路（單線式電話線路ヲ除ク）ニ對シ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ササル樣適當ニ離隔スルコトヲ要ス（細第二十一條）

前項ニ依リ施設スルモ猶既設弱電流電線路ニ對シ障害ヲ及

ホス虞アルトキハ更ニ適當ナル方法ヲ施スコトヲ要ス

第四十三條　特別高壓電線ヲ支持スル電柱ニハ適當ノ方法（細第三十二條）ニ依リ其ノ特別高壓タルコトヲ表示スルコトヲ要ス

電柱ニハ事業者、記號、電柱番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

建造物、道路、鐵道、軌道、架空電線路及架空弱電流電線路ト近接セル電柱又ハ其ノ附近ニハ公衆ヲシテ注意ヲ爲サシムル爲適當ナル掲示（細第三十二條）ヲ爲スコトヲ要ス

但シ一萬五千「ヴォルト」以下ノ電線路ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　特別高壓架空電線ニハ「ビー」、「エス」四番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス（細第十五條）

第四十五條　特別高壓架空電線ニハ電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第四十六條　特別高壓架空電線ノ地表上ノ高サハ二十尺以上

トス但シ特殊ノ場所ニ限リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四十七條　特別高壓架空電線路ハ本則第四十八條乃至第五十一條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外柱間距離百五十尺以下ナルトキハ左ノ各號ニ依リ設計シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス（細第三十三條及細第三十四條）

一　電線ノ弛度ハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ五以上トシ電線ノ重量ヲ支持シ得ル樣計算シタルモノナルコト（細第十五條）

二　木柱ハ電線路ト直角ノ方向ニ於テ垂直面ニ對シ一平方呎ニ付四十封度圓壔形面積ニ對シ其ノ垂直投影面積一平方呎ニ付電線ニ在リテハ二十封度電柱ニアリテハ二十四封度ノ風壓ニ耐フルコト

三　木柱强度ノ安全係數ハ一萬五千「ヴォルト」以下ノ電線路ニ在リテハ四以上、一萬五千「ヴォルト」ヲ超過スルモノニ在リテハ五以上ナルコト（細第十六條）

四　木柱ノ太サハ末口ノ直徑五寸以上ナルコト

柱間距離百五十尺ヲ超過スル場合ニハ鐵柱若ハ鐵塔ヲ使用スルカ又ハ特殊ノ設計ニ依ル木柱ヲ使用スルコトヲ要ス

第四十八條　木柱ニ依ル特別高壓架空電線路カ川越其ノ他特殊ノ理由ニ依リ電線路ノ一部分ニ限リ柱間距離百五十尺ヲ超過シ五百尺以下ナル場合ニハ前條第一項及左ノ各號ニ依リ設計シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス

一　氷雪多キ地方（細第三十五條）ニ於ケル電線ノ弧度ハ前條第一項第一號ニ依ル外更ニ其ノ地方ノ最低温度ニ於テ安全係數ヲ二以上トシ第二號ノ荷重ヲモ支持シ得ル樣計算シタルモノナルコト

二　氷雪多キ地方ニ於ケル木柱ハ前條第二號ニ依ル外更ニ電線ノ周圍ニ厚サ四分ノ一吋ノ氷雪附着シ（細第三十六條）前條第二號ノ二分ノ一ニ等シキ風壓ニモ耐フルモノナルコト

三　柱間距離三百尺以上ノ場合ニ於ケル木柱ニハ全線條ノ破壞張力ノ六分ノ一ニ等シキ不平均張力ニ耐フル支線ヲ設クルコト但シ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ルモノタルコト

第四十九條　特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、他ノ架空電線、架空弱電流電線トカ水平距離ニ於テ其ノ特別高壓電線ヲ支持スル電柱ノ地表上ノ高サニ相當スル距離乃至十尺迄ニ接近スルトキハ本則第四十七條第一項第一號第二號、第四號及左ノ各號ニ依リ施設シ且特ニ堅牢ニ建設（細第三十七條）スルコトヲ要ス

一　柱間距離ハ一萬五千「ヴオルト」ヲ超過スルモノハ百二十尺以下又ハ一萬五千「ヴオルト」以下ノモノハ百五十尺以下ナルコト

二　木柱強度ノ安全係數ハ一萬五千「ヴオルト」以下ノ電線路ニ在リテハ八以上、一萬五千「ヴオルト」ヲ超過スルモノニ在リテハ十以上ナルコト

柱間距離ガ前項第一號ノ制限ヲ超過スル場合ニハ鐵柱又ハ鐵塔ヲ使用スルカ又ハ特殊ノ設計ニ依ル木柱ヲ使用スルコトヲ要ス

前各項ノ場合ニ於テハ電線ニハ之ト同等以上ノ强サヲ有スル補助吊架線ヲ設クルカ又ハ六本以上ヨリ成ル撚線ヲ使用スルモノトス但シ撚線ノ使用ハ之カ爲特ニ接續點ヲ增加セサル塲合ニ限ルモノトス

特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、他ノ架空電線、架空弱電流電線トカ水平距離十尺以內ニ接近スルトキハ前條第一項ニ依リ施設シ且危險ヲ生セシメサル樣適當ニ施設(細第三十八條)スルコトヲ要ス

第五十條　一萬五千「ヴオルト」以下ノ特別高壓架空電線ト建造物、道路、一萬五千「ヴオルト」以下ノ他ノ架空電線、架空弱電流電線トカ水平距離十尺以內ニ接近スルトキハ前條第一項ニ依リ施設シ且危險ヲ生セシメサル樣適當ニ施設(細第三十八條)スルコトヲ要ス

第五十一條　特別高壓架空電線ト道路、鐵道又ハ軌道ト交叉スル箇所ニ於テハ本則第四十七條第一項第一號第二號第四號、第四十九條第一項第一號第二號及同條第三項ニ依リ設計シ且特ニ堅牢ニ建設(細第三十九條)スルコトヲ要ス

特別高壓架空電線カ他ノ特別高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ於テハ上部ノ電線路ハ前項ノ工事方法ニ依ルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於ケル電線相互ノ間隔ハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ヲ除クノ外常ニ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

一　六萬「ヴオルト」以下ノモノハ六尺以上

二　六萬「ヴオルト」ヲ超過スルモノハ一萬「ヴオルト」及其ノ端數ヲ加フル每ニ一尺ヲ加フ

第五十二條　特別高壓架空電線ト低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ヲ除クノ外特別高壓電線ヲ他ノ上部トシ前條ノ工事方法ニ

依リ施設シ且電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ニ施設（細第四十條）スルコトヲ要ス

第五十三條　特別高壓電線カ同一電氣事業者ニ屬スル左ノ架空電線又ハ架空電話線ト交叉又ハ接近スル場合ニハ本則第四十九條第五十條及第五十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　電路ノ一部ヲ接地セル低壓又ハ高壓電線

二　特別高壓架空電線路ニ添架セル電話線及直接之ト接續セル電話線

特別高壓架空電線カ同一電氣事業者ニ屬スル鐵道又ハ軌道ト交叉又ハ接近スル場合ニハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本則第四十九條及第五十一條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條　特別高壓電線ト低壓又ハ高壓電線トハ本則第五十五條ニ規定セル場合ヲ除クノ外同一支持物ニ添架スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニヨリ逓信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條　一萬五千「ヴォルト」以下ノ特別高壓電線ト同

一事業者ニ屬スル低壓又ハ高壓電線トハ電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ニ施設（細第四十一條）スル場合ニ於テハ同一支持物ニ添架スルコトヲ得

第五十六條　特別高壓架空電線ト竹木其ノ他ノ植物トノ間隔ハ風雪其ノ他如何ナル場合ニ於テモ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

一　六萬「ヴォルト」以下ノモノハ六尺以上

二　六萬「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ一萬「ヴォルト」及其ノ端數ヲ加フル毎ニ一尺ヲ加フ

第五十七條　特別高壓架空電線ヲ煙突又ハ之ニ類スル工作物ニ接近シテ施設スル場合ニ於テ該工作物ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以内ニ接近スルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　特別高壓架空線ト工作物又ハ其ノ支線トノ間隔ハ左ノ距離ヲ保持スルコト

（イ）六萬「ヴォルト」以下ノモノハ六尺以上

（ロ）六萬「ヴォルト」ヲ超

過スルモノハ一萬「ヴオルト」及其ノ端數ヲ加フル毎ニ一尺ヲ加フ

二　金屬製煙突及煙突ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

第五十八條　特別高壓架空電線路ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ架空電纜ノ場合ニ在リテハ電纜（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲ試驗スルモノトス

使用電壓　試驗電壓
五萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ一倍半
五萬「ヴオルト」以上　最大使用電壓ニ二萬五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

星形ニ結線セル發電機又ハ變壓器ノ中性點ヲ本則第四條第三項ニ適合スル電氣抵抗ヲ通シテ接地セル場合ニ於テハ其ノ電路ニ接續スルモノニ限リ前項ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

使用電壓　試驗電壓
五萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ一・二五倍

五萬「ヴオルト」以上　最大使用電壓ニ一萬三千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

第五十九條　特別高壓架空電線ト他ノ架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ八尺以内ノ距離ニ接近シテ架設セムトスルトキ及其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理又ハ撤去セムトスル場合ニハ本則第四十條ノ規定ヲ準用ス

三　地中電線路

第六十條　地中電線ヲ藏ムル暗渠、管、樋、電線接續函及地中函等ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐ヘ且瓦斯又ハ水ノ成ルヘク浸入セサル樣築造スルコトヲ要ス

第六十一條　地中電線ニハ前條ノ暗渠、管、樋ニ藏ムル場合ヲ除クノ外鎧裝電纜ヲ使用シ其ノ上部及側面ニ堅牢ナル石又ハ木板ノ類ヲ以テ他働的損傷ヲ豫防スルコトヲ要ス

特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合又ハ道路ヲ横斷セサル低壓引込線ニハ前項ノ豫防裝置ヲ爲シ鉛被電線ヲ使用スルコトヲ得

第六十二條　地中電線路ハ漏洩

電流又ハ誘導作用ニ因リ既設地中弱電流電線ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ホササル樣離隔スルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第六十三條　地中電線ト地中弱電流電線トノ交叉又ハ接近距離一尺以下ナルトキハ成ルヘク其ノ部分ヲ短縮シ且相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

第六十四條　特別高壓地中電線ト低壓又ハ高壓地中電線トハ一尺以上ヲ離隔スルカ又ハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

第六十五條　高壓地中電線ト低壓地中電線トハ一尺以下ヲ離隔スルカ又ハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス但シ地中函内ニ於ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條　地中電線ヲ藏ムル金屬製ノ暗渠、管、樋、電線接續函及地中電線ノ被覆ニ用フル金屬體等ハ電氣的接續ヲナシ且第一種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第六十七條　地中函ハ電氣事業專用ノモノトシ且二箇以上ノ事業者ニ於テ之レヲ共用スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　地中函ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　地中函ノ蓋ハ當業者ノ外容易ニ開披シ能ハサル設備ヲ施スコト

二　地中函ノ蓋ニハ事業者ノ記號ヲ表示スルコト

三　地中函ハ水ノ侵入ヲ防止スルノ裝置ヲ施スカ又ハ函内ノ潴水ヲ排除スルノ裝置ヲ施スコト

四　爆發性又ハ燃燒性瓦斯ノ侵入スル虞アル場所ニ設クル地中函ニシテ其太サ三呎立方以上ノモノハ之レヲ放散セシムヘキ通風其ノ他ノ裝置ヲ施スヘキコト

地中函ハ時々點檢シ若瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ放散セシメ且其ノ旨ヲ瓦斯管ノ管理者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十九條　地中電線路ハ左ノ絶縁抵抗又ハ絶縁耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓電線路ノ絶縁部分ト大地トノ間ノ絶縁抵抗（屋

内電路ヲ含有スルト否トニ拘ハラス）ハ漏洩電流カ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セサル樣保持スルコト

二　高壓電線路（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

三　特別高壓電線路（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

使用電壓五萬「ヴォルト」未滿　試驗電壓（最大使用電壓ノ一倍半）

五萬「ヴォルト」以上　試驗電壓（最大使用電壓ニ貳萬五千「ウォルト」ヲ加ヘタルモノ）

星形ニ結線セル發電機又ハ變壓器ノ中性點ヲ本則第四條第三項ニ適合スル電氣抵抗ヲ通シテ接地セル場合ニ於テハ其ノ電路ニ接續スルモノニ限リ前項第三號ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

使用電壓五萬「ヴォルト」未滿　試驗電壓（最大使用電壓ノ一・二五倍）

五萬「ヴォルト」以上　試驗電壓（最大使用電壓ニ一萬三千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ）

第七十條　地中電線路又ハ地中管路相互ニ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ施設セムトスルトキ及其ノ既ニ施設シタルモノヲ修理又ハ撤去セムトスル場合ニハ本則第四十條ノ規定ヲ準用ス

第五節　保安通信設備

第七十一條　送電ノ連絡ヲ有スル發電所、變電所及蓄電所相互間ニハ電話ヲ施設スルコトヲ要ス

左ニ掲クル箇所相互間ニ於テ保安上必要ト認ムルトキハ電話ヲ施設スヘシ

一　發電所及其ノ水路

二　同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐在所

特別高壓架空電線路ニ依リ送電スル場合ニ在リテハ携帶電話機ニ依リ通話スル設備ヲ爲シ且電話線ヲ架空電線路ニ添架スル場合ニハ電線路ノ亘長約一里毎ニ携帶電話機接續箇所又ハ電話機設置所ヲ設クルコトヲ要ス

第七十二條　架空電線路ニ添架スル電話線ニハ「ピー、エス」十番ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第七十三條　電話線ヲ架空電線路ニ添架スルトキハ其ノ架空電線ノ下部ニ架設シ電線ト電話線トノ間隔ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一　架空電線カ特別高壓電線ナルトキハ四尺以上

二　架空電線カ低壓又ハ高壓電線ナルトキハ二尺以上

第七十四條　特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線カ鐵道又ハ軌道ヲ横斷スル場合ハ軌條面上二十尺以上其ノ他ノ場合ハ地表上十六尺以上ノ高サニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第七十五條　特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線及之ニ接續スル電話線ハ之ヲ市街地ニ引込ミ又ハ市街地ヲ通過スル電話線ト接續スルコトヲ得ス

但シ接續スル電話線ニ本則第七十七條第一項ノ規定ニ依ル乙種保安裝置ヲ施シタル場合ニ於テ其ノ中繼線輪ノ二次線ニ接續スル電話線ハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條　特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ハ道路、鐵道、軌道、架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ高壓架空電線ニ準シ之ヲ施設スルコトヲ要ス

但シ電話線ノ地表上ノ高サハ本則第七十四條ノ規定ニ依ル

第七十七條　架空電線路ニ添架スル電話線及之ニ接續スル電話機設置箇所ニ對シテハ其ノ架空電線ノ使用電壓ニ從ヒ適當ナル保安裝置(細第四十二條)ヲ施スコトヲ要ス

二萬五千「ヴォルト」以上ノ特別高壓電線路ニ添架スル電話線ニ於ケル屋外電話機接續箇所ニ對シテハ適當ナル保安裝置(細第四十三條)ヲ施スコトヲ要ス

第二章　電燈、電力及電熱

第一節　屋外工事

第七十八條　低壓又ハ高壓架空電線ト架空弱電流電線ト竝行スル場合ニハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ササル爲電線相互間ノ距離ヲ左ノ各號ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一　電線ト電信線又ハ電氣信號線トノ竝行部分ハ六尺以上

二　往復線竝架ノ直流式電燈線ト電話線トノ竝行部分ハ六尺以上

三　電力線、交流式電燈線又ハ單線架設ノ直流式電燈線ト電話線トノ竝行部分ハ十二尺以上

當該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ架空引込線架空連接引込線ニシテ工事上已ムヲ得サルモノニ限リ前項ノ距離ヲ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

低壓又ハ高壓架空電線ハ第一項ニ依リ施設スルモ猶既設弱電流電線路（單線式電話線路ヲ除ク）ニ對シ誘導其ノ他ノ原因ニ因リ通信上ノ障害ヲ及ホス虞アルトキハ更ニ適當ナル方法（細第四十四條）ヲ施スコトヲ要ス

第七十九條　弧光電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ同一電柱ニ竝行シテ架設スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ホス虞ナキ場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十條　市街地ニ於ケル高壓架空電線路ニハ其ノ亘長十町以下毎ニ開閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシムルコトヲ要ス但シ土地ノ狀態ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ開閉器ヲ設置セル場所ニハ之ニ接近シ且之ヲ取扱フニ便ナラシムル樣適當ナル設備ヲ施スコトヲ要ス

第八十一條　屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ藏ムルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ特ニ危險ノ虞ナキ樣施設スル場合（細第四十五條）ヲ除クノ外地表上十六尺以上ノ高サニ於テ電柱ニ取付クルコトヲ要ス

前項地表上ノ高サノ制限ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ之ヲ輕減スルコトヲ得

第八十二條　交流百五十「ヴオルト」直流三百「ヴオルト」以上ノ架空低壓引込線ハ之ト架空弱電流電線ト交叉シ又ハ水平距離八尺以内ニ接近スルトキハ本則第二十七條及第三十一條ニ依ルノ外高壓架空電線

ニ準シ施設スルコトヲ要ス

第八十三條　架空引込線又ハ屋内電線ニ接續ヲ有スル低壓架空電線ト高壓架空電線トカ交叉、接近、添架又ハ竝行スル場合ニハ低壓電線ヲ高壓電線ノ下部ト爲スコトヲ要ス但シ特ニ堅牢ニ建設（細第四十六條）スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條　架空連接引込線ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ施設スルコトヲ要ス

一　道路ヲ横斷セサルコト

二　引込線ヨリ分岐スル點ヨリ三十間以内ノ區域内ナルコト

三　屋内ヲ通過セス且人ノ容易ニ觸レサル樣取附クルコト

第八十五條　看板、廣告塔又ハ軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ低壓電線ヲ施設スル場合ニハ「ビー、エス」十四番ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ展開セル場所ニ施設スルカ又ハ金屬管工事ニ依リ施設シ且危險ノ虞ナキ樣適當ニ施設（細第四十七條）スルコトヲ要

ス

前項ノ電線相互間及電線ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ機械器具附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメサルコトヲ要ス但シ白熱電燈供給ノ場合ニ在リテハ一燈ニ對シ一「メグオーム」以上タルコトヲ要ス

第二節　屋内工事

一　通則

第八十六條　屋内ニ施設スル電線相互間及電線ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ機械器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ劇場ニ於テハ最大供給電流ノ二萬分ノ一其ノ他ノ場所ニ於テハ最大供給電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメサルコトヲ要ス但シ白熱電燈供給ノ場合ニ在リテハ劇場ニ於テハ一燈ニ對シ四「メグオーム」其ノ他ノ場所ニ於テハ一燈ニ對シ二「メグオーム」以上タルコトヲ要ス

前項ノ絶縁抵抗ハ劇場ニ於テハ毎年四回以上其ノ他ノ場所ニ於テハ毎年一回以上試驗シ（劇場、病院、濕氣又ハ塵埃ノ充チ易キ箇所ヲ除クノ外兩線間ノ試驗ヲ要セス）其ノ成績

ヲ記錄スルコトヲ要ス

第八十七條　屋内ニ送電スル電壓ハ特殊ノ工事方法（細第五十一條）ニ依リ施設スル場合又ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ得タル場合ヲ除クノ外直流ニ在リテハ五百「ヴォルト」交流ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」以下トス但シ乾燥セル場所ニ限リ此ノ制限以上ノ低壓ニ依リ送電スルコトヲ得

第八十八條　同一ノ屋内ニ施設スル二箇以上ノ電路カ之ニ供給スル事業者ヲ異ニスルトキハ各電路相互間ノ距離ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一　隔壁アル場合

（イ）各電路カ隱蔽工事ナル場合　四尺以上

（ロ）各電路カ露出工事ナル場合　五寸以上

（ハ）隱蔽工事ニ依ル電路ト露出工事ニ依ル電路トノ場合　五寸以上

二　隔壁ナキ場合

（イ）各電路カ隱蔽工事ナル場合　四尺以上

（ロ）各電路カ露出工事ナル場合　一尺以上

工事上已ムヲ得ス前項ノ距離以内ニ於テ交叉スルトキハ各電線ニ鎧裝電纜ヲ使用スルカ又ハ各電路ヲ金屬管工事ニ依リテ施設スルカ若ハ電路ノ一ニ充分ノ長サヲ有スル碍管内ニ藏メタル絶縁電線ヲ使用シ展開セル所ニ施設スルコトヲ要ス

第八十九條　屋内ニ施設スル電線ニハ技術上已ムヲ得サルモノ（細第五十二條）ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十條　屋内ニ施設スル鎧裝電纜及鉛被電線ハ第四種絶縁電線ト同等以上ノ効力ヲ有スル電線ナルコトヲ要ス

第九十一條　屋内ニ施設スル電線ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　電球線又ハ移動シテ使用スル電線ハ可撓紐線タルコト但シ床上六尺以下ニ垂下セサル電球線又ハ電燈球ヲ移動セザル樣施設セル電球線ニハ七本以上ノ撚線ヨリ成ル「ビー、エス」十八番以上ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ得

二　前號以外ノ電線ハ「ビー、エス」十四番ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノタルコト

電燈吊管其ノ他之ニ類スル短小ナル管內ニ藏ムル電線ハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第九十二條　電球線又ハ移動シテ使用スル電線ニハ其ノ施設場所方法ニ從ヒ左ニ掲クル電線ヲ使用スルトヲ要ス

一　濕氣アル場所ニ施設スル場合

（イ）移動シテ使用スルモノニハ第三種乙可撓紐線

（ロ）移動セスシテ使用スル電球線ニハ第三種甲若ハ乙可撓紐線又ハ前條第一項第一號但書ニ適合スル第四種絕緣電線

二　前號以外ノ場所ニ施設スル場合

（イ）移動シテ使用スルモノニハ第二種又ハ第三種乙可撓紐線

（ロ）移動セスシテ使用スル電球線ニハ第一種、第二種、第三種甲又ハ乙可撓紐線

第九十三條　屋內ニ施設スル電線ハ鎧裝電纜、鉛被電線及金屬管又ハ木製線樋內ニ藏メタル電線ヲ除クノ外耐火耐水質ノ碍子ヲ使用シ且容易ニ人ノ觸レサル樣取附クルコトヲ要ス

第九十四條　屋內ニ施設スル鎧裝電纜ノ鎧裝、鉛被、鉛被電線ノ鉛被及電線ヲ藏メタル金屬管ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥セル場所ニ施設セル電燈吊管電燈腕管又ハ之ニ類スル短小ナル金屬管ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條　屋內ニ於テ絕緣電線ノ造營物ヲ貫通スル部分ハ之ヲ碍管內ニ藏ムルコトヲ要ス但シ乾燥セル場所ニ限リ工事上已ムヲ得サルトキハ護謨管又ハ護謨「テープ」ヲ以テ碍管ニ代用スルコトヲ得

第九十六條　屋內ニ於テ電線ト弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ト交叉又ハ接近スルトキハ電線及弱電流電線ニ鎧裝電纜ヲ用ヒタル場合ヲ除クノ外相互間ヲ五寸以上離隔スルコトヲ要ス

工事上已ムヲ得ス前項ノ距離以內ニ於テ交叉又ハ接近スルトキハ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絕緣性ノ隔壁ヲ設クルカ又ハ絕緣電線ヲ充分ノ長サヲ有スル碍管內ニ藏ムルコトヲ要ス

第九十七條　屋内ニ施設スル電線ニハ引込口ニ近キ場所開閉器及自働遮斷器ヲ各極ニ裝置シ且開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル樣施設スルコトヲ要ス

屋内ニ施設スル白熱電燈用電線ハ一「キロワット」以下毎ニ分岐シ且各線ニ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アルモノハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十八條　屋内工事ハ其ノ施設場所ニ從ヒ左ニ掲クル工事ニ依リ施施スルコトヲ要シ

一　點檢シ能ハサル掩蔽場所(細第五十三條第一項)

(イ)　電纜工事

(ロ)　金屬管工事

(ハ)　第三種絶縁電線ヲ使用スル隱蔽工事(乾燥セル場所ニ限ル)

二　點檢シ得ル掩蔽場所(細第五十三條第二項)

(イ)　前號(イ)又ハ(ロ)ノ工事

(ロ)　隱蔽工事

(ハ)　木製線樋工事(乾燥セル戸棚又ハ押入内ニ限ル)

三　展開セル場所

(イ)　第一號(イ)又ハ(ロ)ノ工事

(ロ)　露出工事

(ハ)　木製線樋工事(乾燥セル場所ニ限ル)

金屬管工事又ハ電纜工事ニ依リ施設スヘキ場合ニ於テ外物ノ爲損傷ノ虞ナキ場所ニ限リ工事上已ムヲ得サルトキハ鉛被電線ヲ使用シテ施設スルコトヲ得

第九十九條　本則第八十六條乃至第八十九條、第九十一條、第九十三條、第九十五條乃至九十八條及第百條乃至第百三條ノ規定ハ發電所、變電所、蓄電所及開閉所其ノ他之ニ準スル場所(細第五十四條)ノ屋内工事ニ之ヲ適用セス

二　露出工事

第百條　屋内ニ於テ露出工事(細第五十五條)ニ依リ施設スル電線ニハ第二種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

工事上已ムヲ得ス人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ニハ第三種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

三　隱蔽工事

第百一條　屋内ニ於テ蔽隱工事(細第五十六條)ニ依リ施設スル電線ニハ第二種又ハ第三種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

四　木製線樋工事

第百二條　屋内ニ於テ木製線樋工事(細第五十七條)ニ依リ施設スル電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

五　金屬管工事

第百三條　屋内ニ於テ金屬管工事(細第五十八條)ニ依リ施設スル電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

前項ノ電線ハ七本以上ヨリ成ル撚線ナルコトヲ要ス但シ「ビー、エス」十二番ヨリ小ナル電線ハ此ノ限ニ在ラス

六　特殊場所ニ於ケル工事

第百四條　濕氣アル場所、腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所、爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所又ハ劇場ニ施設スル電氣工作物ハ各特殊ノ設計ニ依リ危險ノ虞ナキ樣施設スルコトヲ要ス(細第五十九條乃至細第六十四條)

第百五條　火藥ヲ製造スル建物内ニ施設スル電氣工作物ハ逓信大臣ノ認可ヲ得タル特殊ノ設計ニ依リ施設スルコトヲ要

ス

第三節　隧道及坑内工事

第百六條　隧道、坑内其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スル低壓又ハ高壓電線路ノ絶縁抵抗及絶縁耐力ニ關シテハ本則第三十九條ノ規定ヲ準用ス

第百七條　人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル低壓又ハ高壓電線(電車線ヲ除ク)ニハ第三種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

前項ノ電線ハ其ノ大地ニ對スル電壓五十五「ヴオルト」ヲ超過スルトキハ之ヲ鎧裝スルカ又ハ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルコトヲ要ス

人ノ觸レサル樣施設スル電線又ハ常ニ人ノ通行セサル坑内若ハ路面上高サヲ八尺以上ノ箇所ニ施設スル電線ニハ本則第二十八條ノ規定ニ準シ其ノ使用電壓ニ相當スル絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

殊特ノ事由アルモノニ限リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百八條　電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ移動セズシテ使用スル

電球線ニハ第三種甲可撓紐線又ハ本則第九十一條第一項第一號但書ニ適合スル第四種絶縁電線ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第百九條　坑内引込口ニハ開閉器ヲ設置スルコトヲ要ス

第四節　臨時工事

第百十條　臨時電氣工事ニシテ細則ニ定ムル適當ノ施設（細第六十五條）ヲ爲セルモノハ施設後一月ヲ限リ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外短期間ヲ限リ使用スル目的ヲ以テ臨時ニ施設スル電氣工作物ニ關シテハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本令ニ規定スル施設制限ヲ輕減スルコトヲ得

第五節　電熱器具

第百十一條　電熱器具ハ危險ノ虞ナク細則ニ定ムル仕樣ニ適合スルモノヲ使用スルコトヲ要ス（細第六十六條）

第三章　電氣鐵道

第一節　通則

第百十二條　電車線ニ使用スル電壓ハ低壓トス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百十三條　直流單線式電氣鐵道用架空電線路ト架空弱電流電線路（單線式電話線路ヲ除ク）ト並行スル場合ニハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ホサルル爲電線相互間ノ距離ヲ左ノ各號ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一　電線ト電信線又ハ電氣信號線トノ並行部分ハ六尺以上

二　電線ト電話線トノ並行部分ハ十二尺以上

當該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得タル時ハ前項ノ距離ヲ二尺迄短縮スルコトヲ得

直流單線式電氣鐵道用架空電線路ハ第一項ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路（單線式電話線路ヲ除ク）ニ對シ誘導其ノ他ノ原因ニ因リ通信上ノ障害ヲ及ホス虞アルトキハ更ニ之ヲ除却スヘキ適當ナル方法（細第六十七條）ヲ施スコトヲ要ス

第百十四條　電氣鐵道用架空電線路ハ磁力觀測所ニ對シ觀測上ノ障害ヲ及ホサル樣離隔スルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル

豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二節　架空電車線制

第百十五條　道路ニ施設スル電車線ハ其ノ亘長十町以下毎ニ之ヲ區劃シ各區劃部分ニ對スル送電ヲ遮斷シ得ルノ施設ヲ爲スコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百十六條　架空電線ニハ「ビー、エス」零番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百十七條　道路ニ施設スル架空電車線ノ支持點間ノ距離ハ百二十尺以下トス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百十八條　架空電車線ノ地表上ノ高サハ十六尺以上トス但シ隧道內、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ十二尺迄短縮スルコトヲ得

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百十九條　架空電車線ト架空弱電流電線ト交叉又ハ接近スル部分ニ於テハ相互ノ電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲電氣鐵道事業者ニ於テ適當ノ施設（細第六十八條）ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條　饋電線ヨリ分岐シテ架空電車線ニ達スル電線ハ之ヲ吊架スル金屬線ヨリ絕緣シ且該金屬線ハ之ヲ接地スルコトヲ要ス

架空電車線ヲ吊架スル金屬線ハ電車線間及電車線ヨリ一尺以內ニアル部分ヲ除クノ外之ヲ接地スルコトヲ要ス

市街地以外ニ於テ電車線路ニ接近シテ弱電流電線ノ架設シアラサル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルル迄前二項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第百二十一條　電車線及之ニ接續セル電路中絕緣部分ノ絕緣抵抗ハ其ノ漏洩電流カ軌道一里ニ對シ一「アムペア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル樣保持ス

ルコトヲ要ス

前項ノ漏洩電流カ軌道一里ニ對シ「一アンペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ電車運轉ヲ繼續スルコトヲ得ス

第一項ノ絶縁抵抗ハ毎日一回以上送電前最大使用電壓ヲ以テ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第三節　歸線

第百二十二條　歸線（單線式電氣鐵道ノ軌條又ハ其ノ軌條ニ接續スル電線ヲ謂フ以下之ニ同シ）ハ軌道又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外總テ之ヲ大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十三條　直流單線式電氣鐵道ノ軌道ト金屬製地中管路ト九町以内ノ距離ニ接近スルトキハ障害ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スル事ヲ要ス

一　歸線ノ不絶縁部分ト地中管路トノ距離ハ六尺以上ナルコト但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ特殊ノ施設（細第六十九條）ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ其ノ距

離ヲ短縮スルコトヲ得

二　歸線ハ隔日ニ其ノ極ヲ轉換スルカ又ハ發電機ノ陰極ニ接續スルコト

三　軌條ハ完全ナル電氣的接續ヲ爲スコト

四　軌道ニハ軌條ノ外「ビー、エス」零番ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スルコト但シ特殊ノ方法ニ依リ接續シタル軌條ヲ使用スル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

五　補助線ハ軌條ノ接續點二箇以下毎ニ「ビー、エス」零番ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スルモノヲ以テ軌條ト接續スルコト

六　歸線ノ不絶縁部分ニ其ノ一年間ノ平均電流ヲ通スルトキ起ル電位ノ差ハ二「ヴオルト」ヲ超過セシメサルコト

七　歸線ノ不絶縁部分ニ生スル最大電位ノ差ヲ常ニ自働的ニ記錄スル裝置ヲ施スコト

軌條接續部分ノ抵抗ハ六月毎ニ二回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ

記錄スルコトヲ要ス

地中管路ノ種類ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得タルトキ又ハ地中管路所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ第一項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第一項第二號乃至第七號ニ依ル施設ハ金屬製地中管路カ電氣鐵道敷設後ニ接近スル場合ト雖電氣鐵道事業者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第百二十四條 前條ノ場合ニ於テ電氣鐵道ノ軌道カ專用敷地內ニ敷設シタルモノニシテ軌條及之ニ接續スル電氣導體ト大地トノ間ヲ砂利(厚サ一尺以上)枕木等ヲ以テ充分ニ離隔シ又逓信大臣ノ認可ヲ得タル特殊ノ方法ニ依リ接續シタル軌條ヲ使用スルトキ又ハ工事上已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外軌條ノ接續點五箇以下毎ニ一回ノ割合ヲ以テ兩軌條ヲ「ピー、エス」零番ノ導線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スルモノヲ以テ接續スルトキハ前條第一項第四號乃至第六號ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

前項ニ依リ施設スルモ猶他ニ障害ヲ及ホス虞アルトキハ更ニ適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第百二十五條 歸線ハ其ノ不絕緣部分及之ト大地トノ間ニ生スル最大電位ノ差ニ依リ踏切其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ於テ人畜ニ危險ヲ及ホササル樣適當ナル施設(細第七十條)ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十六條 地中管路所有者ノ承諾アリタルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト地中管路トノ電氣的接續ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ電氣的接續ヲ爲シタルトキハ三月毎ニ一回以上其ノ接續點ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第四節 電車

第百二十七條 電車內ノ電路ト大地トノ間ニ於ケル絕緣抵抗ハ漏洩電流ヲシテ規定電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメサル樣保持スルコトヲ要ス

前項ノ絕緣抵抗ハ毎月一回以上最大使用電壓ヲ以テ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第百二十八條 電車ニハ一箇以上ノ電磁的又ハ之ニ相當スル

自働遮斷器ヲ備ヘ且ツ運轉臺ニ於テ容易ニ開閉シ得ルノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ貨物用電車ハ此ノ限ニ在ラス

車輛內ニ於テ電流ノ通スル部分ハ操業者ノ外容易ニ人ノ觸ルル虞ナキ樣施設スルコトヲ要ス

第百二十九條　電氣鐵道ノ運轉車輛數及其ノ走行哩數ハ每日之ヲ記錄スルコトヲ要ス

車輛ノ運轉ニ使用スル電流及電壓ハ發電所、變電所及蓄電所ニ於テ少クトモ三十分間每ニ之ヲ記錄スルコトヲ要ス

第二編　細則

第一章　總則

第一節　機械及器具

配電盤

第一條　低壓又ハ高壓用ノ器具ヲ取附クル盤ハ不可燃質物又ハ耐水性不易燃質ノ塗料ヲ施シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス但シ低壓三十「アンペア」以下ノ需用者屋內配線盤ハ此ノ限ニ在ラス

特別高壓用ノ器具ヲ取附クル盤ハ絕緣性不可燃質物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第二條　配電盤ニ取付クル器具及ヒ接續電線（管內ニ藏メタル電線及鎧裝電纜ヲ除ク）ハ容易ニ點檢シ得ル樣施設スルコトヲ要ス但シ低壓三十「アンペア」以下ノ需用者屋內配線盤ニシテ造營材ト一寸以上ヲ離隔シテ施設シ且其ノ裏面ノ接續電線ニ第四種絕緣電線ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

盤ノ裏面ニ高壓若ハ特別高壓用器具又ハ接續電線ヲ施設スルトキハ取扱者ニ危險ヲ及ホササル樣盤ノ裏面ト對壁トノ

間ニ充分ナル通路ヲ設クルコトヲ要ス

特別高壓用ノ器具及接續線ヲ取付クル盤ノ前方ニ取扱者ノ爲適當ナル絶縁臺ヲ設置スルコトヲ要ス

開閉器自働遮斷器其ノ他

第三條　開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不可燃質物ヲ以テ絶縁シタルモノナルコトヲ要ス

第四條　開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他之ニ類スル器具ニハ其ノ使用電流及電壓ヲ指示スルコトヲ要ス但シ三「アムペア」以下ノ可熔片ハ此ノ限ニ在ラス

變壓器及變流器

第五條　特別高壓機械器具ニ附屬スル變壓器及變流器ノ二次線ハ第三種地線工事ニ依リ之ヲ接地スルコトヲ要ス

第六條　本則第六條ノ特殊ノ施設トハ總出力百五十「キロワット」以下使用電壓二萬五千「ヴォルト」以下ノ特別高壓用變壓器ニシテ左ノ各號ニ準シ施設セルモノヲ謂フ

一　特別高壓用變壓器及特別高壓電氣ヲ以テ充電スル電

線其ノ他ノ器具ハ地表上二十尺以上ニ施設スルコト但シ人ノ接觸ヲ豫防スルニ充分ナル藩籬（藩籬ノ高サ及藩籬ヨリ器具又ハ電線ニ至ル距離ノ和ハ二十尺以上）ヲ設ケタル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

二　特別高壓用變壓器ヲ設置セル場所ニ隣接シテ監視人ヲ常置スル詰所ヲ建設スルコト

三　特別高壓用變壓器ノ外函ヲ第一種地線工事ニ依リ接地スルコト

四　特別高壓側及高壓側ニ避雷器ヲ設備スルコト

五　特別高壓側ニ包裝可熔片ヲ設備スルコト

六　特別高壓側ニ斷路器又ハ其ノ他ノ開閉器ヲ設備シ且高壓側ニ地上ヨリ容易ニ開閉シ得ル油入開閉器ヲ設備スルコト

七　高壓側ニ檢漏器ヲ設備シ之ヲ監視人詰所内ニ取附クルコト

第七條　本則第七條但書ノ危險ヲ生セシメサル適當ノ施設ヲ爲セル場合トハ左ノ

如キモノヲ謂フ

一　鐵臺又ハ外函ノ周圍ニ絶縁臺ヲ設ケ其ノ上ニテ作業スル場合

二　柱上變壓器ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ樣設置シタル場合

三　低壓用ノ機械器具ヲ乾燥セル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶縁性ノ物質上ヨリ取扱フ場合

開閉器

第八條　本則第九條ノ特殊ノ場合トハ左ノ規定ニ依ルモノヲ謂フ

一　本則第九十七條ニ規定ス

ル引込用開閉器ヲ除クノ外六百「ワット」以下ノ低壓電路ニ對シテハ單極ニ裝置スルコトヲ得

自働遮斷器

第九條　本則第十條ノ特殊ノ規定ニ依ル場合トハ左ノ規定ニ依ルモノヲ謂フ

一　本則第十八條ニ依リ變壓器ノ二次線ノ一端ヲ接地シタル場合ニ於テハ其ノ接地シタル側ノ低壓電線ニ本則第九十七條ニ規定スル引込用自働遮斷器及屋内ニ施設スル自働遮斷器ヲ除クノ外自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ス

二　前號ノ場合ヲ除クノ外本則第九十七條ニ規定スル引込用自働遮斷器及道路ヲ横斷スル引込用遮斷子ヲ除クノ外六百「ワット」以下ノ低壓電路ニ對シテハ單極ニ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得

檢漏器

第十條　本則第十一條ノ檢漏器ハ漏電ノ程度ヲ常ニ自働的ニ表示スルモノナルコトヲ要ス但シ千「ヴオルト」以下ノ電路ニ於テ一時間ニ六回以上漏電ヲ檢スル場合ニハ此ノ裝置ニ依ラサルコトヲ得

一萬五千「ヴオルト」以上ノ電路ニ於テハ檢壓器ヲ以テ前項ノ檢漏器ニ代用スルコトヲ得

檢漏器ハ左ニ掲クル箇所ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

（イ）　發電所、變電所、蓄電所及此等ニ準スヘキ場所ニ於ケル引出用母線

（ロ）　他ヨリ供給ヲ受クル特別高壓又ハ高壓電氣ノ受電點（受電點カ之ニ供給スル發電所、變電所及蓄電所ニ隣接セル場合又ハ受電セル電氣ヲ受電點ニ隣接セル場所ニ於ケル變壓器ニ依リ變電スル場合若ハ受電セル電氣ヲ受電點ニ隣接セル場所ニ於ケル電動機ニ使用

スル場合ハ之ヲ除クコトヲ得

避雷器

第十一條　本則第十一條ノ避雷器ノ接地ハ第一種地線工事ニ依リ施設シ架空電線短キ場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ヲ除クノ外左ニ掲クル箇所ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

（イ）發電所、變電所及蓄電所ノ架空電線引込口及引出口

（ロ）特別高壓又ハ高壓架空電線ノ坑内引込口及地中線トノ接續箇所

（ハ）全容量百「キロワット」以上ノ變壓器若ハ電動機ヲ設置セル箇所又ハ特別高壓用變壓器若クハ電動機ヲ設置セル箇所

（ニ）雷災ノ多キ地方ニ在リテハ前記以外ノ場所ト雖避雷器ヲ必要トスル箇所

特別高壓用器具及電線

第十二條　本則第十二條ノ特別高壓用器具及電線ヲ危險ノ虞ナキ樣裝置スルトハ左記ニ準シ施設スルヲ謂フ

一　特別高壓用開閉器、自働遮斷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具ハ木製ノ床、壁、天井其ノ他ノ可

燃質物ト六尺以上離隔スルコト但シ耐火質物ヲ以テ兩者間ヲ離隔シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別高壓電氣ヲ以テ充電スル器具及電線ニシテ人ノ觸ルル虞アル位置ニ裝置セルモノハ其ノ周圍ニ人ノ接觸ヲ豫防スヘキ適當ノ裝置ヲ爲スコト但シ取扱者ノ外出入シ得サル場所ニ裝置セルモノハ此ノ限ニ在ラス

可熔片

第十三條　本則第十三條第一項ノ定格ニ關スル試驗ハ（使用場所ニ取附前ノ試驗）左ノ通之ヲ定ム

一　低壓ニ使用スル定格電流二百「アムペア」以下ノ非包裝可熔片ハ之ヲ水平ニ取附ケテ（板狀可熔片ハ板面ヲ水平ト爲スコト）試驗シ五分間以上定格電流ノ一・四五倍ノ電流ニ耐ヘ一分間以内ニテ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スルコト

二　高壓ニ使用スル非包裝可熔片ハ二分間以内ニ定格電流ノ二倍ノ電流ニ依リテ熔斷スルコト

第十四條　本則第十三

條第二項ノ特殊ノモノトハ左ノ如キモノヲ謂フ

一　紐線吊内ニ裝置スル定格電流三「アムペア」以下ノ非包裝可熔片

二　硬キ金屬製ニシテ其ノ兩端ヲ端片ニ代用シ得ル板狀可熔片

三　硬キ金屬製ニシテ左記ノ長サ以上ノ非包裝可熔片

定格電流	長サ（端子間）
一〇「アムペア」未滿	四吋
二〇「アムペア」未滿	五吋
三〇「アムペア」未滿	六吋

第二節　電線、電路及附屬設備

電線ノ抗斷力

第十五條　電線ノ最小抗斷力ハ左記ヲ以テ標準トス

電線ノ種類	最小抗斷力（一平方吋ニ付）
硬銅線	五〇、〇〇〇封度
軟銅線	三〇、〇〇〇封度
「アルミニウミ」線	二三、〇〇〇封度
鐵線	五〇、〇〇〇封度

木柱強度

第十六條　本柱ノ彎曲ニ對スル破壞強度ハ左記ヲ以テ標準トス

木材ノ種類	最小破壞強度（一平方吋ニ付）
杉	五、五〇〇封度
檜	七、〇〇〇封度

木柱ノ強度計算ニ於テ杉及檜ノ直徑增加率ハ百分ノ一トス

電線ノ接續

第十七條　電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　電線ノ電氣抵抗ヲ增加セシメサルコト

二　電線ノ强サヲ二割以上減少セシメサルコト

三　接續管又ハ特殊ノ方法ニテ接續スル場合ヲ除クノ外接續部分ヲ鑞著スルコト

絕緣電線ノ安全電流

第十八條　本則第十四條ニ依ル木綿絕緣銅線及護謨絕緣銅線ノ安全電流ハ左表ニ依ルモノトス

絕緣銅線安全電流表備考

（イ）本表ハ單心絕緣銅線ノ安全電流ヲ示スモノニシテ屋外トアルハ地中電線ヲ含マス

（ロ）木製線樋内ニ施設スル護謨絕緣銅線ノ安全電流ハ本表ノ安全電流ニ〇・六ヲ乘シタルモノトス

（ハ）金屬管内ニ施設スル護謨絕緣銅線ノ安全電流ハ本表ニ依ルモノトス

（ニ）同一線樋又ハ管内ニ二本以上施設スル護謨絕緣銅線ノ安全電流ハ本表ノ安全

絶縁銅線安全電流表

心線ノ太サ 構造(B. S)	心線ノ太サ サーキユラーミル	木綿絶縁銅線 屋内 電流(アムペア)	木綿絶縁銅線 屋外 電流(アムペア)	護謨絶縁銅線 屋内 電流(アムペア)	護謨絶縁銅線 屋外 電流(アムペア)
61/井 8	799.424	890	820	680	630
,, 9	792.756	750	700	580	540
,, 10	634.644	640	600	500	470
,, 11	605.141	540	510	430	400
,, 12	400.221	460	430	370	340
,, 13	316.224	390	360	320	290
,, 14	249.856	330	300	270	250
,, 15	198.189	290	260	240	220
,, 16	158.661	240	220	200	175
37/井 8	606.208	620	580	480	450
,, 9	480.852	520	480	410	390
,, 10	384.948	450	410	360	330
,, 11	306.397	350	330	310	290
,, 12	242.757	320	300	270	240
,, 13	191.808	270	250	230	210
,, 14	151.552	230	210	190	175
,, 15	120.213	200	185	165	150
,, 16	96.237	165	150	135	125
19/井 10	197.676	280	260	230	210
,, 11	157.339	240	220	200	180
,, 12	124.659	200	185	170	155
,, 13	98.496	165	155	140	130
,, 14	77.824	145	135	115	105
,, 15	61.731	120	115	100	90
,, 16	49.419	105	95	85	75
,, 17	38.475	90	80	70	65
,, 18	30.400	75	65	65	60
7/井 10	72.828	135	130	120	105
,, 11	57.967	120	110	105	95

心線ノ太サ 構造(B. S.)	心線ノ太サ サーキユラーミル	木綿絶縁銅線 屋内 電流(アムペア)	木綿絶縁銅線 屋外 電流(アムペア)	護謨絶縁銅線 屋内 電流(アムペア)	護謨絶縁銅線 屋外 電流(アムペア)
,, 12	45,927	100	90	85	80
,, 13	36,280	85	75	75	65
,, 14	28,672	75	65	65	55
,, 15	22,743	65	55	55	50
,, 16	18,207	55	45	45	40
,, 17	14,175	45	40	40	35
,, 18	11,200	40	35	35	30
1/井 0	105,625	175	165	150	130
,, 1	83,521	150	140	120	110
,, 2	66,564	125	115	100	90
,, 3	52,441	105	100	90	80
,, 4	41,616	90	85	80	70
,, 5	33,124	80	70	70	60
,, 6	26,244	65	60	60	50
,, 7	20,736	55	50	50	45
,, 8	16,384	50	45	45	40
,, 9	12,996	45	35	40	35
,, 10	10,404	35	30	30	30
,, 11	8,281	30	25	25	25
,, 12	6,561	25	23	23	22
,, 13	5,184	23	20	20	18
,, 14	4,096	20	19	18	16
,, 15	3.249	18	14	15	14
,, 16	2,601	16	12	13	12
,, 17	2,052	14	10	11	10
,, 18	1,624	12	9	10	9
,, 19	1,289	10	7	8	7
,, 20	1,024	9	6	7	6

電流ニ左記係數ヲ乘シタルモノトス

「ビー、エス」零番以下ノモノ

二本ノ場合　〇・八
三本ノ場合　〇・七
四本及五本ノ場合　〇・六
六本乃至十本ノ場合　〇・五

「ビー、エス」零番ヲ超過スルモノ二本ノ場合　〇・六
三本ノ場合　〇・五
四本及五本ノ場合　〇・四
六本乃至十本ノ場合　〇・三

地線

第十九條　本則第十八條ニ依ル地線ハ變壓器ノ低壓側ノ最大電流ヲ安全ニ通シ得ルモノナルコトヲ要ス

但シ「ビーエス」四番ノ銅線ヨリ大ナル電線ヲ用ヒサルコトヲ得

第二十條　本則第十八條ノ地線ヲ二箇以上ノ變壓器ニ共通ニ使用スル爲架空共同地線工事ヲ施ストキハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一　架空共同地線ニハ「ビーエス」四番以上ノ硬銅線鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ使用スルコト

二　架空共同地線工事ノ地線ト大地トノ電位差ハ其ノ地線ニ接續セル變壓器ノ總出力ノ二割ニ相當スル一次電流ノ二倍ノ電流ヲ通シタル場合ニ百五十「ヴォルト」以下ナルコト但シ此ノ電流ハ其ノ地線ニ接續セル變壓器中最大出力ノ變壓器ニ相當スル一次電流ノ二倍以下タルコトヲ得ス

三　二箇所以上ニ地板ヲ埋設スルコト

四　變壓器ハ地板ヨリ二町以上離隔セサルコト

變壓器ノ低壓幹線ノ一線ノ強サ及太サカ前項第一號ニ適合スルトキハ之ヲ架空共同地線ニ兼用スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル各架空共同地線ハ十町ヲ直徑トスル地域ノ外ニ亘ルコトヲ得ス

第二十一條　本則第二十條ノ地線ヲ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ニ於テハ地板ヲ地下五尺以上ノ深サニ埋設シ地板ヨリ地上二尺ニ至ル迄ノ地線ハ充分大地ト絶

緣(地線ニハ第四種絶縁電線ヲ用ヒ竹又ハ木ノ如キ不導體ノ樋ヲ以テ覆ヒ地線ト樋トノ間ニ絶縁物ピッチノ類ヲ塡充スルコト)シ且地上八尺ノ高サ迄人ノ接觸及他働的損傷ヲ豫防スル爲竹又ハ木樋ヲ以テ之ヲ保護スルコトヲ要ス

前項ノ地線ヲ施設セル電柱ニハ避雷用地線ヲ取付クルコトヲ得ス

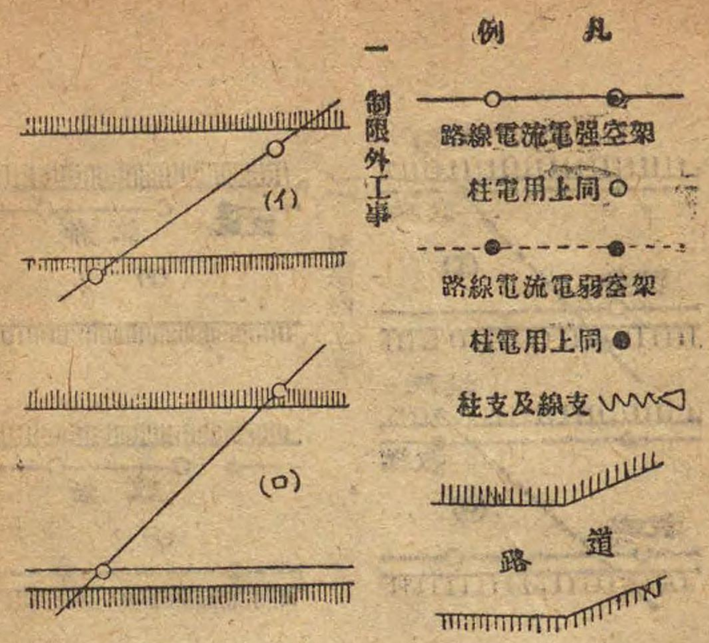
第二十二條　避雷用架空地線ニハ「ビー、エス」四番ノ硬銅線、鐵線又ハ之ト同等以上ノ强サ及太サヲ有スル裸電線ヲ使用シ且之ヲ第一種地線工事ニ依リ接地スヘシ

第三節　電線路

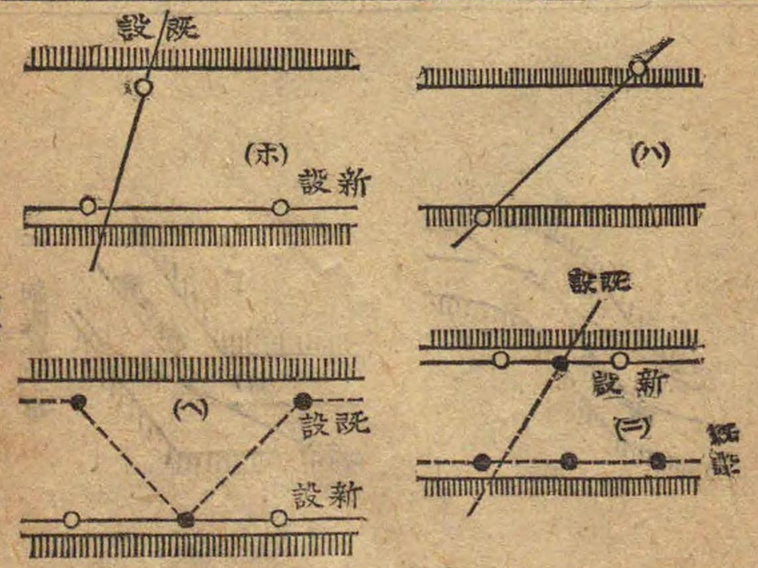
一　低壓及高壓架空電線路

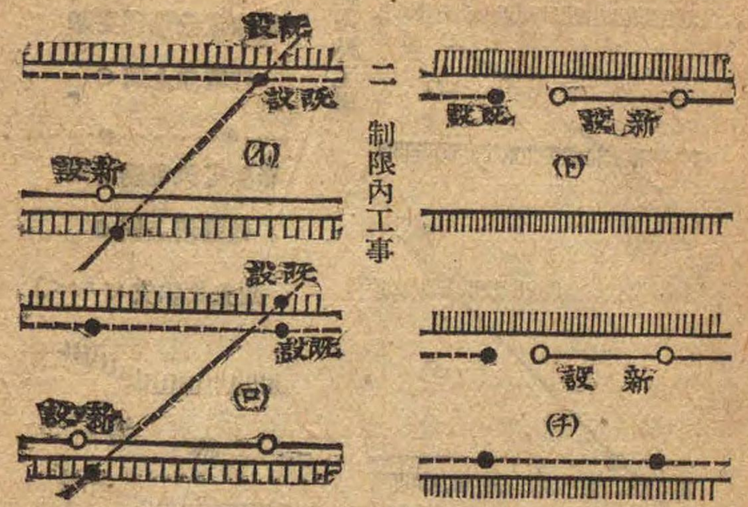
架空電線路ノ位置

第二十三條　本則第二十三條第一項第一號及第二號ノ圖解左ノ如シ

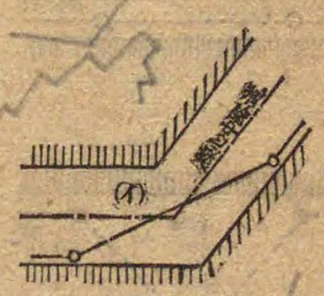


一　制限外工事





二　制限內工事

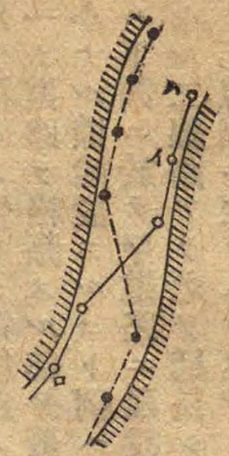


三　制限外工事

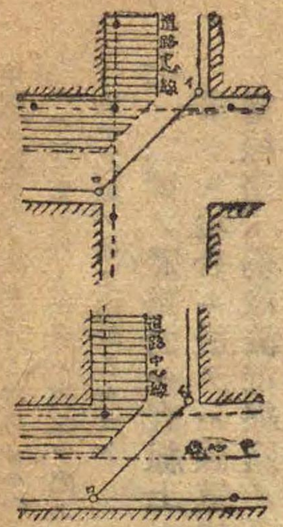
四　制限內工事

（イ）（ロ）間既ニ制限外認可ヲ得タル電線路

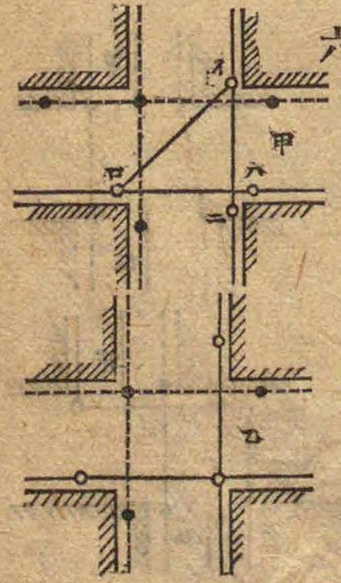
（イ）（ハ）間延長セントスル電線路

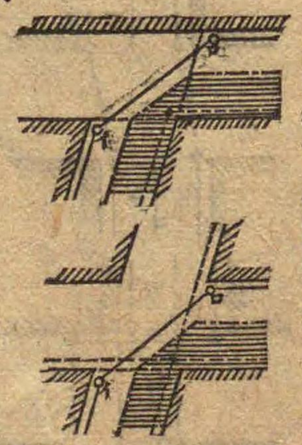


五



六

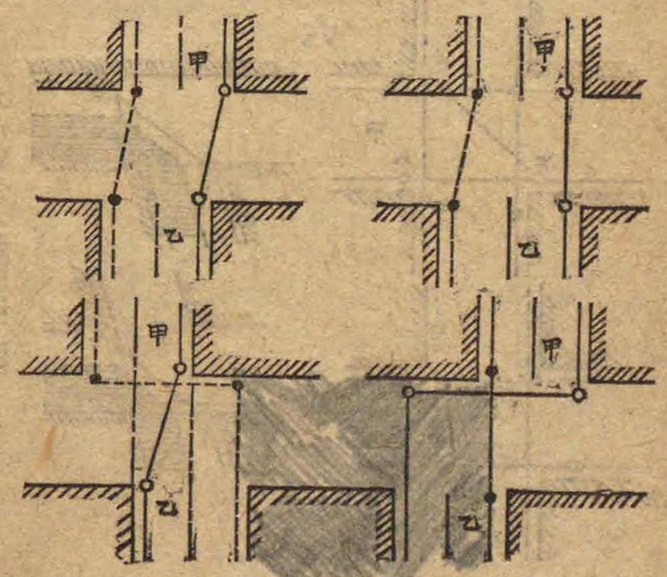


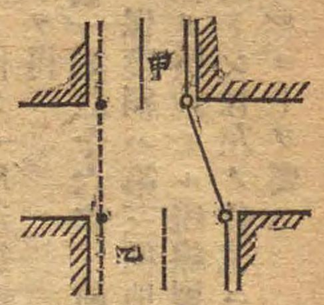


（イ）（ロ）電柱カ弱電流電線ニ障害ヲ與ヘズシテ電線路カ陰影外ノミヲ通過スル場合ハ制限內工事トス

甲圖ニ於テ(イ)(ロ)ヨリ延長シテ(ニ)(ハ)ニ至ル如キ場合ハ複雜ナ來スヲ以テ乙圖ノ如ク建設スルコト

七　二箇ノ道路同一直線上ニ非サル場合ニ於テハ强電流電線路、弱電流電線路ノ區別ヲ問ハス何レカ電線路ノ一カ道路ヲ横斷スル部分最小ナル樣建設スルコト例ヘハ下圖ニ於テ甲道路ニ建設セル二線路アリ之ヲ延長シテ乙道路ニ至ラムトスルトキハ甲乙ノ位置ニ依リ圖示ノ通リ施設スルコト(制限內工事)





高壓用腕木及碍子

第二十四條　本則第二十四條第二項ノ適當ナル方法トハ腕木又ハ碍子ノ表面全部又ハ碍子ノ頸部以下ヲ赤色ト爲スカ如キ方法ヲ謂フ

劣等線ノ建設

第二十五條　本則第二十九條ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一　架空電線カ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ相互間ノ水平距離八尺以下ナルトキハ架空電線ノ上部ニ保護網ヲ施設スルコト但シ水平距離四尺以上垂直距離其ノ一倍半以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　架空電線カ架空弱電流電線ト其ノ下部ニ於テ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スルトキハ架空電線ノ上部ニ保護線ヲ施設スルコト

三　保護網及保護線ト架空電線トノ上下距離並保護網及

保護線ト架空弱電流電線トノ上下距離ハ二尺以上トス但シ保護網及保護線ト架空電線トノ距離ハ工事上止ムヲ得サル場合ニ於テハ一尺迄又保護網及保護線ト架空弱電流電線トノ上下距離ハ當該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得テ一尺迄短縮スルコトヲ得

保護網

第二十六條　前條第一號ノ保護網ハ第三種地線工事ニ依リ接地セル鐵線製ノ網狀裝置トシ且左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一　縱線ノ太サ「ビー、エス」六番以上

二　縱線相互ノ間隔五尺以下

横線ノ太サ「ビー、エス」十番以上

横線相互ノ間隔五尺以下

三　保護網カ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ノ割合ハ保護網ト電線トノ上下距離ハ一尺以下

保護線

第二十七條　細則第二十五條第二號ノ保護線ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル二條以上ノ鐵線トシ且左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一　鐵線ノ太サ「ビー、エス」六番以上

二　鐵線相互ノ間隔二尺五寸以下

三　鐵線カ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ノ割合ハ保護線ト電線トノ上下距離二尺ノ場合ニ於テ一尺以上

裸線建設ノ場合ニ於ケル保護裝置

第二十八條　本則第卅一條第一項第三號ノ適當ノ施設トハ電線相互間ニ第三種地線工事ニ依リ接地シタル二條以上ノ金屬線ヲ施設スルカ又ハ他ノ電線若ハ弱電流電線ニ「ビー、エス」四番ノ硬銅線若ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルヲ謂フ

前項ノ金屬線ハ六本以上ヨリ成ル撚線ニシテ「ビー、エス」四番ノ銅線、鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ之ヲ裸電線ノ兩外線ノ直下部ニ架設シ他ノ架空電線又ハ架空弱電流電線ト二尺以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコトヲ要ス

同一腕木ニ架設スル高低壓電線

第二十九條　本則第三十二條ノ危險ノ虞ナキ樣取附ケタル電線

トハ柱上變壓器ノ導線又ハ引込線ノ接續線ノ如ク電柱又ハ腕木ニ堅牢ニ取附ケタルモノヲ謂フ

高壓用木柱計算

第三十條　本則第三十七條第三號ノ木柱ノ末口ハ支線ヲ有セサル杉材ニ在リテハ左ノ公式ニ依リ計算シタルモノトス但シ檜材ノ木柱ニ在リテハ其ノ末口ハ次式ヨリ得タル末口直徑ヨリ一割小ナルモノトス

一　人家連檐ノ場所ニ於ケル電柱

$$D^3 \geqq 0.56SEH_1 + 0.0026H^3$$

$$D = D_0 - 0.1H$$

Dハ電柱ノ末口（寸ヲ單位トス）

Sハ柱間距離（尺ヲ單位トス）但シ兩側電柱間ノ距離相等シカラサル場合ニ於テハ兩柱間距離ノ各半分宛ヲ加ヘタルモノトス

Eハ電線直徑ノ和（吋ヲ單位トス）

H_1ハ電線支持點ノ地表上ノ平均高サ（尺ヲ單位トス）

Hハ電柱地表上ノ高サ（尺ヲ單位トス）

D_0ハ電柱地表面ニ於ケル直徑（寸ヲ單位トス）

二　人家連檐セサル場所ニ於ケル電柱

$$D^3 \geqq 0.053SEH_1 + 0.001H^3$$

二　特別高壓架空電線路

通信上ノ障害豫防

第三十一條　本則第四十二條ノ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ホササル樣離隔ストハ架空電話線ノ場合ニ在リテハ架空電線ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ各號ニ適合スルヲ謂フ

一　最大使用電壓一萬五千「ヴォルト」ヲ超過スル場合

（イ）電話線路ノ亘長十里毎ニ付左ノ公式ニ依リ計「マイクロアムペア」ヲ超過セサル範圍內ニ兩線路間ノ距離及接近部分ノ亘長ヲ保持スルコト

$$i_T = V_E D_1 10^{-3} \left\{ 0.1n + 26 \sum \frac{l_1}{b_1 b_2} \right\}$$

i_Tハ受話器ニ通スル誘導電流（「マイクロアムペア」ヲ單位トス）

V_Kハ強電流電線路ノ線間電壓（千「ヴォルト」ヲ單位トス）

D_1ハ強電流電線路ノ線間距離（尺ヲ單位トス）

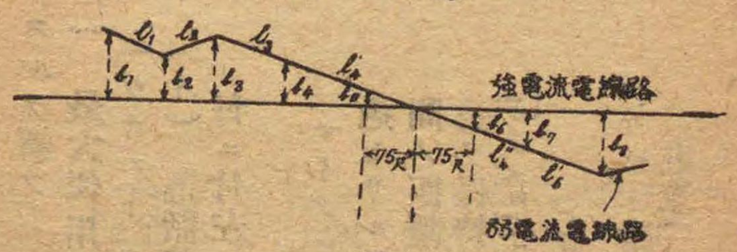
b_1 b_2 b_3ハ強電流電線ト電話線トノ間ノ距離（尺ヲ單位トス）

l_1ハb_1b_2間 l_2ハb_2b_3間 l_3ハb_3b_4間ノ電話線路ノ亘長（尺ヲ單位トス）

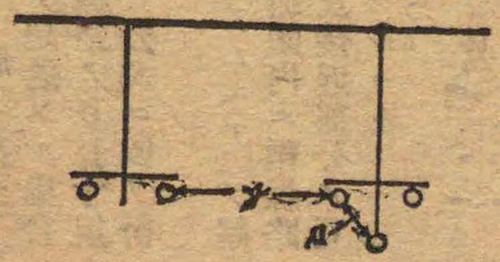
nハ交叉點ノ數（強電流電線路ト電話線路トノ交叉點前後各七十五尺ノ部分ヲ一交叉點トシテ計算ス）

（ロ）前記公式ノ適用方法ヲ示セハ左ノ如シ

第一圖



第二圖



$$\sum\frac{l_1}{b_1b_2}=\frac{l_1}{b_1b_2}+\frac{l_2}{b_2b_3}+\frac{l_3}{b_3b_4}+\frac{l_4'}{b_1b_5}+\frac{l_4''}{b_6b_7}+\frac{l_5}{b_7b_8}+\cdots$$

（ハ）既設架空電話線路ニ關シ左記ノ距離以上離隔セル架空特別高壓電線路ノ部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

使用電壓	兩線路間ノ距離
二萬二千「ヴォルト」以下	二百尺
三萬三千「ヴォルト」以下	三百五十尺
四萬四千「ヴォルト」以下	五百尺
五萬五千「ヴォルト」以下	七百尺
六萬六千「ヴォルト」以下	九百尺
七萬七千「ヴォルト」以下	一千百尺
十一萬「ヴォルト」以下	一千九百尺

（ニ）一萬五千「ヴォルト」ヲ超過スル他ノ既設特別高壓電線路カ存在スルトキハ（イ）ノ誘導電流ノ制限ハ左ノ公式ニ依リ之ヲ計算スルモノトス

$$y\geqq 4-0.5x$$

xハ他ノ既設特別高壓電線路ニ依ル誘導電流ノ總和（「マイクロアムペア」ヲ單位トス）

yハ新設電線路ニ依ル誘導電流「マイクロアムペア」ヲ單位トス）

二　最大使用電壓一萬五千「ヴォルト」以下ノ場合

（イ）　電話線路ノ亘長一里毎ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流カ一・五「マイクロアムペア」ヲ超過セサル範圍内ニ兩線路間ノ距離及接近部分ノ亘長ヲ保持スルコト

$$i_T = V\,10^{-3}\left(2.5n + 60\sum_{\text{不並行部分}}\frac{l_1}{b_1 b_2} + 60\sum_{\text{並行部分}}\frac{l}{b_2}\right)$$

（五十尺以上）

$$2.76\sum_{\text{不並行部分}}\frac{l_1 \log\frac{b_2}{b_1}}{b_2 - b_1} + 1.2\sum_{\text{並行部分}}\frac{l}{b}$$

（五十尺以下）

i_T ハ受話器ニ通スル誘導電流（「マイクロアムペア」ヲ單位トス）

V ハ強電流電線路ノ線間電壓（千「ヴォルト」ヲ單位トス）

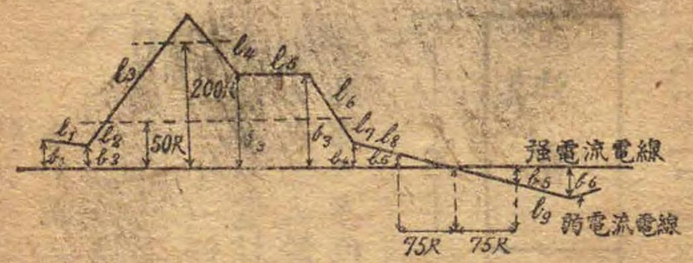
b_1 b_2 b_3 ハ兩電線路竝行セサル部分ニ於ケル強電流電線ト電話線トノ間ノ距離

l_1 ハ b_1 b_2 間 l_2 ハ b_2 b_3 間ノ電話線路ノ亘長（尺ヲ單位トス）

b ハ兩電線路竝行セル部分ニ於ケル兩電線間ノ距離（尺ヲ單位トス）

l ハ兩電線路竝行セル部分ニ於ケル接近部分ノ亘長

n ハ交叉點ノ數（強電流電線路ト電話線路トノ交叉點前後各七十五尺ノ部分ヲ一交叉點トシテ計算ス）



（ロ）　前記公式ノ適用方法ハ上圖ニ示ス如ク強電流電線ヨリ五十尺及二百尺ノ箇所ニ強電流電線ニ竝行セル二線ヲ引キ左ノ如ク計算ス

$$\sum \frac{l_1 \log \frac{b_2}{b_1}}{b_2 - b_1} = \frac{l_1 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_1 - b_2} + \frac{l_2 \log \frac{50}{b_2}}{50 - b_2} + \frac{l_2 \log \frac{50}{b_1}}{50 - b_1} + \frac{l_3 \log \frac{b_4}{b_5}}{b_4 - b_5} + \frac{l_3 \log \frac{b_6}{b_5}}{b_6 - b_5}$$

$$\sum \frac{l_1}{b_1 b_2} = \frac{l_3}{50 \times 200} + \frac{l_4}{200 \times b_3} + \frac{l_6}{b_3 \times 50}$$

$$\sum \frac{l}{b_2} = \frac{l_5}{b_3^2}$$

$$n = 1$$

（ハ）既設架空電話線路ト二百尺以上離隔スル架空

特別高壓電線路ノ部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

特別高壓ノ標示

第三十二條　本則第四十三條第一項ノ適當ノ方法トハ電柱ノ地表上八尺以上ノ高サニ於テ縱幅一尺以上ノ外部ヲ赤色ト爲スカ如キヲ謂フ

本則第四十三條第三項ノ適當ナル掲示トハ上記ノ注意札又ハ之ニ類スル標札ヲ謂フ

木柱ノ根入及支線

第三十三條　本則第四十七條ノ堅牢ニ建設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一　木柱根入ハ「コンクリート」又ハ之ニ準スル基礎ヲ有スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ルモノトス

木柱ノ全長	根入
四十八尺未滿	木柱全長ノ六分ノ一以上
四十八尺以上	八尺以上

二　電線路ノ直線部分（五度以内ノ角度ヲ有スル部分ヲ含ム）ニ於ケル木柱ニハ三柱間以下毎ニ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線三條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ設クルカ又ハ之ト同等以上ノ强サヲ有スル支柱ヲ設クルモノトス但シ一萬五千「ヴオルト」以下ノ電線路ハ此ノ限ニ在ラス

三　電線路ノ直線部分（五度以内ノ角度ヲ有スル部分ヲ含ム）ニ於ケル本柱ニハ電柱九柱間以下毎ニ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ設ク

ルモノトス

電線路ノ計算　第三十四條　本則第四十七條第一項ノ木柱ノ末口ハ杉材ニ在リテハ左ノ公式ニ依リ計算シタルモノトス但シ檜材ノ木柱ニ在リテハ其ノ末口ハ次式ヨリ得タル末口直徑ヨリ一割小ナルモノトス

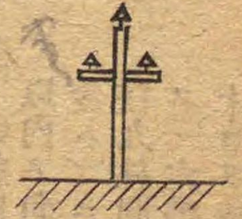
一　支線ヲ有セサル單柱

$D^3 \geqq 0.053SEH_1 + 0.001H^3$

15,000「ヴオルト」以下ノモノ

$D^3 \geqq 0.072SEH_1 + 0.0025H^3$

15,000「ヴオルト」ヲ超スルモノ



Dハ電柱ノ末口（寸ヲ以テ單位トス）

Sハ柱間距離（尺ヲ以テ單位トス）

但シ兩側電柱間ノ距離相等シカラサル場合ニ於テハ兩柱間距離ノ各半分宛ヲ加ヘタルモノトス

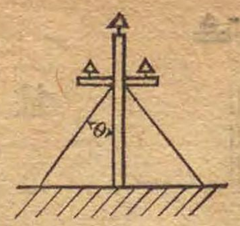
Eハ電線直徑ノ和（吋ヲ單位トス）

H_1ハ電線支持點ノ地表上

ノ平均高サ（尺ヲ單位トス）

Hハ電柱地表上ノ高サ（尺ヲ單位トス）

二　支線ヲ有スル單柱



$$\begin{cases} D^3 \geqq 0.056SEH_1 + 0.0026H^3 \\ D = D_0 - 0.1H \end{cases}$$

15,000「ヴオルト」以下ノモノ

$$\begin{cases} D^3 \geqq 0.071SEH_1 + 0.0041H^3 \\ D = D_0 - 0.1H \end{cases}$$

15,000「ヴオルト」ヲ超セルモノ

但シD_0ハ電柱地表面ニ於ケル直徑（寸ヲ單位トス）

本號ノ支線ハ左ノ公式ニ依リ計算スルモノトス

$A = 0.0001(SE + 0.72DH + 0.036H^2)Cosec\theta$

$\theta = 45°$ナルトキ

$A = 0.0001(1.4SE + DH + 0.05H^2)$

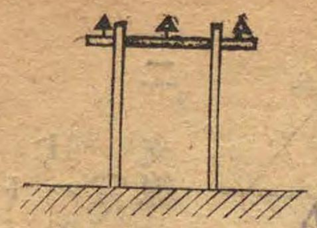
$n = 0.01(0.7SE + 0.5DH + 0.025H^2)$

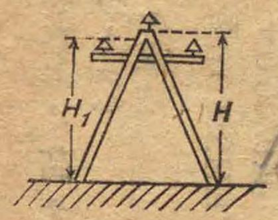
Aハ鐵線ヲ用ヒタル場合ノ支線斷面積（平方吋ヲ單位トス）

θハ支線カ電柱トナス角度

nハθ四十五度ニシテ「ビー、エス」六番鐵線ヲ支線トシテ用ヒタル場合ノ線條數

三　支線ヲ有セサルH柱及A柱





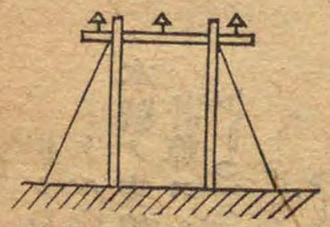
$D^3 \geqq 0.027SEH_1 + 0.001H^3$

15,000「ヴォルト」以下ノモノ

$D^3 \geqq 0.036SEH_1 + 0.0025H^3$

15,000「ヴォルト」ヲ超過スルモノ

四　支線ヲ有スルH柱



$$\begin{cases} D_0^3 \geqq 0.028SEH_1 + 0.0026H^3 \\ D = D_0 - 0.1H \end{cases}$$

15,000「ヴォルト」以下ノモノ

$$\begin{cases} D_0^3 \geqq 0.036SEH_1 + 0.041H^3 \\ D = D_0 - 0.1H \end{cases}$$

15,000「ヴォルト」ヲ超過スルモノ

$A = 0.0001(SE + 1.44DH + 0.07H^2)\ \mathrm{Cosec}\,\theta$

$\theta = 45°$ナルトキ

$A = 0.0001(1.4SE + 2DH + 0.1H^2)$

$n = 0.01(0.7SE + DH + 0.05H^2)$

第三十五條　本則第四十八條ノ氷雪多キ地方ト稱スルハ左ニ掲クル地方ヲ謂フ

北海道、青森縣、秋田縣、山形縣、巖手縣、宮城縣、福島縣、新潟縣、長野縣、富山縣、石川縣、福井縣、岐阜縣(北部)、滋賀縣(北部)、京都府(北部)、兵庫縣(北部)、鳥取縣、島根縣及土地高峻ニシテ特ニ寒氣嚴シキ地方並栃木縣、群馬縣、埼玉縣、東京府、神奈川縣、山梨縣等ノ如キ氷雪ノ附着シ易キ地方

第三十六條　本則第四十八條第二號ノ計算ニ於テ電線ニ附着スル氷雪ノ重サハ一立方呎ニ付五十七封度トス

電線路ノ特種工事

第三十七條　本則第四十九條ノ特ニ堅牢ニ

建設ストハ細則第三十三條第一號、第三號及左ノ各號ニ依リ施設スルヲ謂フ

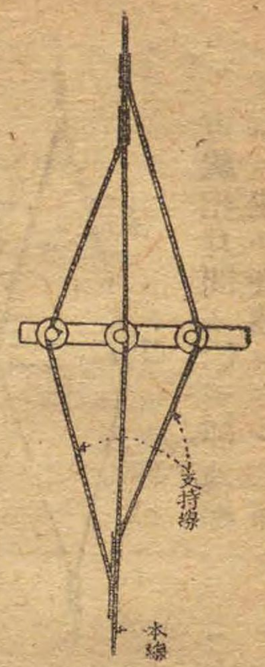
一　一萬五千「ヴォルト」ヲ超過スル電線路ノ木柱ニハ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ設クルモノトス

二　腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且此ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルモノトス

第三十八條　本則第五十條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一　建造物ト接近又ハ架渉スル場合ニ於テハ左圖ノ如ク三箇以上ノ碍子ヲ以テ電線ヲ支持シ木柱ニ依ル電線路ニ在リテハ各柱ニ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ設ケ且電線ト建造物トノ最小接近距離ヲ十尺以上ト爲スコト

二　道路ニ接近シ又ハ道路ニ沿ヒ道路上ニ建設スル場合ニ於テハ二箇以上ノ碍子ヲ



以テ前號ニ準シ電線ヲ支持スルコト

三　一萬五千「ヴォルト」以下ノ他ノ架空電線又ハ架空弱電流電線ト接近スル場合ニ於テハ最小接近距離ヲ六尺以上ト爲スコト

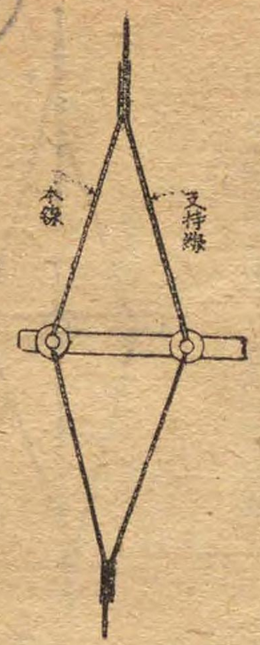
前項第一號ノ支持線ニハ本線ト同一ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ且本線トノ接續ハ堅牢ニシテ電氣的完全ナラシムルコトヲ要ス

第三十九條　本則第五十一條ノ特ニ堅牢ニ建設スルトハ細則第三十三條第一號及第三十七條第二號ニ依リ施設シ且電線路ノ方向ニ於テ電柱(鐵塔ヲ除ク)ニ「ビー、エス」六番以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ施設スルヲ謂フ

第四十條　本則第五十

二條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一　二箇以上ノ碍子ヲ以テ左圖ノ如ク電線ヲ支持スルカ又ハ電線カ切斷スル事アルモ他ノ電線若ハ弱電流電線ニ混觸セサル樣施設スル事



二　電線相互間ニ第三種地線工事ニ依リ接地シタル二條以上ノ金屬線ヲ施設スルカ又ハ他ノ電線若ハ弱電流電線ニ「ビー、エス」四番ノ硬銅線若ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコト

前項第一號ノ支持線ニハ本線ト同一ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ且本線トノ接續ハ堅牢ニシテ電氣的完全ナラシムルコトヲ要ス

第一項第二號ノ金屬線ハ六本以上ヨリ成ル撚線ニシテ「ビー、エス」四番ノ銅線、

鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ之ヲ特別高壓架空電線ノ兩外線ノ直下ニ架設シ他ノ架空電線又ハ架空弱電流電線ト二尺以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコトヲ要ス

第四十一條　本則第五十五條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一　特別高壓電線ヲ低壓又ハ高壓電線ノ上部トシ且本則第四十九條第三項ニ依リ施設スルコト

二　特別高壓電線ト添架電線トノ間隔ハ四尺以上ト爲スコト

三　添架部分ノ兩端及添架電線ヲ引出シ又ハ引キ入ルル發電所、變電所若ハ蓄電所ニ本則第十九條ノ保安裝置ヲ設備スルコト

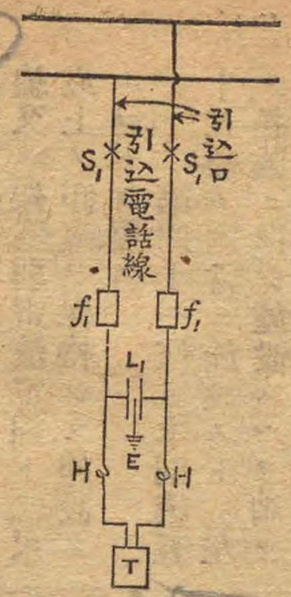
四、添架セル低壓又ハ高壓電線ニハ「ビー、エス」六番以上ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコト

第四節　保安通信設備

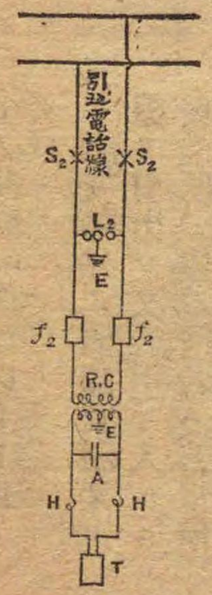
保安裝置　第四十二條　本則第七十七條第一項ノ適當ノ保安裝

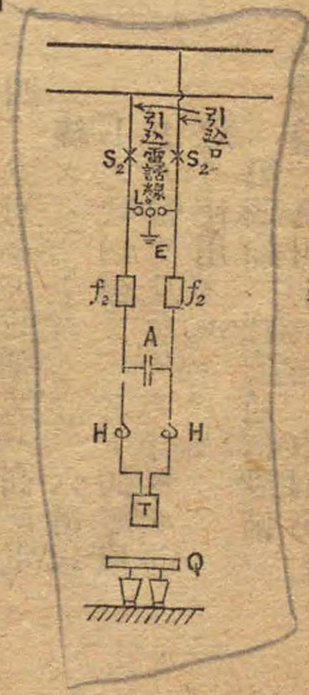
置トハ左ニ掲クル如キモノヲ謂フ

一、架空電線カ低壓又ハ高壓電線ナル場合



二、架空電線カ特別高壓電線ナル場合





甲種保安裝置

T ハ電話機

H ハ二百五十「ミリアムペア」以下ニテ働作スル熱線輪

L_1 ハ交流三百「ヴオルト」ニテ働作スル避雷器

E ハ接地

f_1 ハ五「アムペア」可熔遮斷器

S_1 ハ引込用開閉器

Q ハ交流三千「ヴオルト」ニ耐フル電話機使用者ノ絶縁用踏臺

A ハ交流三百「ウオルト」以下ニテ放電スル空隙

f_2 ハ一「アムペア」包裝可熔遮斷器

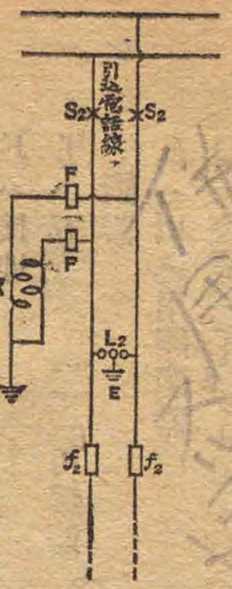
L_2 ハ交流千「ヴオルト」ニテ放電スル避雷器

S_2 ハ引込用高壓開閉器

R.C ハ中繼線輪（一次二次線輪間ノ絶縁耐力ハ交流三千「ヴオルト」ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコト）

三、架空電線カ三萬五千「ヴオルト」以上ノ特別高壓電線ナル場合ニ於テハ前號甲種及乙種保安裝置ニ成ルヘク「ヴレーネージ」線輪ヲモ

併用スルコト（多クノ發電所及變電所間ヲ連絡スル一電話回路ニ對シテハ適當ノ位置ニ在ル二箇ノ電話機設置個所ノミニ取附クルコト）



F　包裝可熔遮斷器

R　「ヅレーネージ」線輪（各端ト中點トノ間ニ交流二千「ヴォルト」ノ電壓ヲ加ヘ一分間之ニ耐フルモノナルコト）

第四十三條　本則第七十七條第二項ノ適當ナル保安裝置トハ交流三千「ヴォルト」ニ耐フル電話機使用者ノ絶縁用踏臺ノ如キモノヲ謂フ

第二章　電燈、電力及電熱

第一節　屋外工事

第四十四條　本則第七十八條第三項ノ適當ナル方法トハ左ノ如キモノヲ謂フ

一、強電流電線ヲ適當ノ距離ニ於テ撚架スルコト

二、強電流電線ト弱電流電線ト交叉又ハ接近スル場合ニ在リテハ其ノ交叉又ハ接近部分ニ於テ電線相互間ニ「ビーエス」六番ノ硬銅線、

鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線二條以上ヲ施設シ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

三　強電流電線及弱電流電線相互間ノ距離ヲ增加スル事

變壓器　第四十五條　本則第八十一條ノ危險ノ虞ナキ樣施設スル場合トハ左ノ如キモノヲ謂フ

一、地中ニ設置セル變壓器

二、石造煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニ人ノ觸ルル虞ナキ樣取附ケタル變壓器

三、地中線用變壓器及其ノ附屬物全部ヲ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬製變壓塔內ニ裝置セルモノ並石造及煉瓦造ノ變壓塔內ニ裝置セルモノ

四、地中線用變壓器ヲ地上十尺以上ノ高サニ於テ變壓器塔ニ取附ケ且變壓器ノ外函、電纜ノ被覆ニ用フル金屬體及附屬物ヲ藏メタル金屬函等ヲ第三種地線工事ニ依リ接地セルモノ

引込線及屋內線ニ接續ヲ有　第四十六條　本則第八十三條ノ特ニ堅牢ニ建

スル低壓線　設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一、架空引込線又ハ架空低壓電線ノ支持物ニハ本則第三十七條第三號ニ適合スルモノニシテ且末口ノ直徑四寸以上ノモノヲ使用シ之ヲ堅牢ニ建設スルコト

二、架空引込線又ハ架空低壓電線ニハ左ノ一ニ該當スル電線ヲ使用スルコト

(イ)「ビー、エス」六番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル第三種絶縁電線

(ロ)「ビー、エス」四番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル第一種絶縁電線

前項ノ電線支持點間ノ距離六十尺以下ナルトキハ前項第二號(イ)ノ場合ニハ「ビー、エス」八番、(ロ)ノ場合ニハ「ビー、エス」六番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ得

看板及廣告燈　第四十七條　本則第八十五條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ

一、工事上已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外電線ハ一「キロワット」以下毎ニ分岐シ各極ニ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スルコト但シ取附燈數二十箇以下ナル場合ニハ此ノ制限ヲ二「キロワット」迄增加スルコトヲ得

二、前號ノ開閉器及自働遮斷器ハ專用ノモノニシテ屋内線用ノモノト兼用セサルコト

三、電球承口ハ陶器又ハ絶縁性耐火質物ヲ以テ製作シ且防濕裝置ヲ施シタルモノニシテ其ノ端子ト電線トノ接續點ニハ鑞著ヲ爲スコト

四、開閉器、自働遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ屋内ニ裝置スルカ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

五、展開セル場所ニ電線ヲ施設スルトキハ工事上已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外造營材ノ側面又ハ下面ニ取附ケ電線支持點間ノ距離ヲ三尺以下トシ且電線ノ種類及取附場所ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電線相互間及電線ト造營材トヲ離隔スルコト

（一）雨露ニ曝露セサル場所ニ施設スル場合

電線ノ種類	電線相互間距離	電線ト造營材トノ距離
（イ）第二種絶縁電線	二寸以上	一寸以上
（ロ）第三種絶縁電線	一寸以上	二分以上

（二）雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合

電線ノ種類	電線相互間距離	電線ト造營材トノ距離
（イ）第二種絶縁電線	五寸以上	三寸以上
（ロ）第三種絶縁電線	三寸以上	二寸以上
（ハ）第四種絶縁電線	二寸以上	一寸以上

六、金屬管工事ハ細則第五十八條及左記ニ依リ施設スルコト

（イ）電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコト

（ロ）電線ニハ七本以上ヨリ成ル撚線ヲ使用スルコト但シ「ビー、エス」十二番以下ノ電線ハ此ノ限ニ在ラス

（ハ）金屬管工事ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

第二節　屋内工事

一　通則

電球線ト屋内幹線トノ接續點

第四十八條　電球線ト屋内幹線トノ接續點ニ於テハ電球及其ノ附屬器具ノ重量ヲ支持セシメサルコトヲ要ス

碍管

第四十九條　屋内ニ使用スル碍管ハ絶縁性耐火質物ヨリ成リ且其ノ端口ハ電線ノ被覆ヲ損傷セサル樣圓滑ノモノナルコトヲ要ス

可熔片

第五十條　屋内ニ施設スル可溶片ハ耐火質物ノ函又ハ管内ニ裝置スルコトヲ要ス

直流五百「ヴオルト」交流

第五十一條　本則第八十七條ノ特殊ノ工事方法トハ左ノ各號ニ準スルモノヲ謂フ

二百五十「ヴオルト」以上ノ低壓及高壓線工事

一、屋内ニ於テ土間又ハ濕氣アル床上ヨリ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ニハ之ニ送電スル電壓直流五百「ヴオルト」交流二百五十「ヴオルト」以上ノ低壓ナルトキハ鎧裝電纜ヲ使用スルカ又ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬管内ニ藏メタル第四種絶縁電線ヲ使用スルコト

二、高壓電氣ヲ送電スル屋内

電線ニハ前號ノ電線ヲ使用スルコト

但シ人ノ觸ルル虞ナキ乾燥セル展開場所ニ於テ電線ノ種類及取附場所ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電線相互間及電線ト造營材トヲ離隔シテ施設スルトキハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

絶縁電線ノ種類	電線相互間ノ距離	電線ト造營材トノ距離	電線支持點間ノ距離
第三種絶縁電線	五寸以上	二寸以上	三尺以下
第四種絶縁電線	四寸以上	一寸以上	三尺以下

裸線使用

第五十二條　本則第八十九條ノ技術上已ムヲ得サルモノトハ左ニ掲クル如キモノヲ謂フ

一、電車線

二、電爐用導體

三、移動起重機用接觸導體

四、絶縁物ヲ腐蝕スル場所ニ使用スル電線

掩蔽場所

第五十三條　本則第九十八條第一項第一號ノ點檢シ能ハサル掩蔽場所トハ破壞的動作ヲ爲スニ非サレハ電氣工作物ニ接近又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ能ハサル場所ニシテ

例ヘハ天井懷、壁内等ノ如キ場所ヲ謂フ

本則第九十八條第一項第二號ノ點檢シ得ル掩蔽場所トハ容易ニ電氣工作物ニ接近又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ得ル場所ニシテ例ヘハ點檢口ヲ有スル小屋裏、戸棚、押入等ノ如キ場所ヲ謂フ

發電所變電所ニ準スル場所

第五十四條　本則第九十九條ノ之ニ準スル場所トハ電氣ヲ發生、變成、充電若ハ放電シ又ハ電路ヲ開閉スル爲構内ニ機械器具ヲ設備セル場所ヲ謂フ

露出工事

二　露出工事

第五十五條　本則第百條第一項ノ露出工事ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一、電線相互間一寸以上ヲ離隔スルコト

二、電線ト造營材トノ間ハ二分以上ヲ離隔スルコト

三　隱蔽工事

隱蔽工事

第五十六條　本則第百條ノ隱蔽工事ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一、第三種絶縁電線ヲ使用セル場合

（イ）工事上已ムヲ得サル

場合ヲ除クノ外造營材ノ側面又ハ下面ニ取附ク事

（ロ）造營材ニ沿フテ取附クルトキハ電線支持點間ノ距離ヲ三尺以下ト爲スコト

（ハ）電線相互間ノ距離二寸以上、電線ト造營物トノ距離一寸以上ヲ離隔スルコト

二、第二種絶緣電線ヲ使用セル場合

（イ）前號（イ）及（ロ）ニ依リ施設スルコト

（ロ）電線ヲ造營材ノ側面又ハ下面ニ取附クルトキハ電線相互間ノ距離四寸以上、電線ト造營材トノ距離一寸以上ヲ離隔スルコト

（ハ）電線ヲ造營材ノ上部ニ取附クルトキハ電線相互間ノ距離四寸以上電線ト造營材トノ距離五寸以上ヲ離隔スルコト

四　木製線樋工事

木製線樋工事

第五十七條　本則第百二條ノ木製線樋工事ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一、線樋ハ乾燥シタル栗、欅、

樫、檜、鹽瀨、柏等ノ如キ堅緻ノ木材ヲ以テ製作シ松、杉等ノ如キ軟質木材ヲ使用セサルコト

二、線樋ノ内外面ニ耐水質ノ塗料ヲ施スコト

三電線ヲ押壓セサル樣溝ノ大サヲ充分ナラシムルコト

四、電線相互間四分以上電線ト線樋ヲ取附クル造營材ト二分以上及電線ト線樋ヲ取附クル金屬捻子ト二分以上ノ距離ヲ離隔スルコト

五、線樋内ニ於テ電線ニ接續點ヲ設ケサルコト

五　金屬管工事

金屬管工事

第五十八條　本則第百三條ノ金屬管工事ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一、管ハ鐵、眞鍮又ハ銅ノ如キ金屬ヲ以テ堅牢ニ製作シタルモノナルコト

二　展開セル場所以外ニ施設スル管ハ引拔・鍛接又ハ鎔接シテ製作セルモノナルコト

三　管ノ内面、屈曲箇所及其ノ端口ハ平滑ニシテ敷線又ハ其ノ引換ニ當リ電線ノ被覆ヲ損傷セサルモノナルコ

ト

四　鐵製ノ管ハ酸化作用ヲ防止スル爲其ノ内外面ヲ「エナメル」等ニテ被覆スルコト

五　金屬管工事ノ接續ハ堅牢ニシテ電氣的完全ナラシムルコト但シ展開セル場所以外ニ施設スル金屬管ノ接續ハ螺旋又ハ鑞著ニテ爲スコト

六　濕氣アル場所又ハ壁内ニ於ケル金屬管工事ハ濕氣ノ侵入セサル樣施設スルコト

七　管内ニ於テ電線ニ接續點ヲ設ケサルコト

六　特殊場所ニ於ケル工事

特殊場所

第五十九條　本則第百四條ニ於ケル特殊場所ノ用語ハ左ノ例ニ依ル

一　濕氣アル場所トハ風呂場、床下、酒醬油等ノ釀造所又ハ貯藏所、料理店ノ包厨、魚屋八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間又ハ洗場、蕎麥屋饂飩屋等ノ釜場ノ如ク水蒸氣ヲ發散スル場所等ヲ謂フ

二　塵埃アル場所トハ精米紡績撚絲製紙製粉碎礦等ノ工場、纖絲綿絲綿「ネル」帆布「モスリン」「セメント」骸炭等ノ製造所等ヲ謂フ

三　腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散セル場所トハ酸類亞留加里鹽酸加里漂白粉染料又ハ人造肥料ノ製造所銅亞鉛等ノ精錬所電氣分銅所電鍍工場蓄電池室等ヲ謂フ

四　爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所トハ火藥類「セルロイド」燐寸石油酒精燒酎「エーテル」類及引火點攝氏四十度以下ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所又ハ爆發性瓦斯ノ發生スル虞アル石炭坑等ヲ謂フ

特殊場所ノ工事

第六十條　濕氣アル場所ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一　開閉器、自働遮斷器、電球承口其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

二　第四種絶縁電線ヲ使用スルコト

三　電線相互間二寸以上、電線ト造營材トノ間一寸以上ヲ離隔スルコト

魚屋八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間又ハ洗場ノ如キ場所ニ施設セル電氣工作物ハ電球線ニ本則第九十二條第一號ニ適合スルモノヲ使用スル外前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第六十一條　塵埃アル場所ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一　自働遮斷器ハ外函内ニ之ヲ藏ムルコト

二　前號ノ外函ハ其ノ内部ニ塵埃ノ浸入セサル樣裝置シ且不可燃質物ヲ以テ製作スルカ又ハ不可燃質物ヲ函ノ内面全部ニ貼リタルモノヲ使用スルコト

三　紐線吊ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セサル樣裝置シ且其ノ蓋ハ堅牢ナル絶縁性不可燃質物ヲ使用シ震動ニ因リ弛緩セサル樣堅固ニ取附クルコト

四　前號ノ方法ニ依ラサル場合ニハ紐線吊ニ可熔片ヲ用ヒス直ニ電球線ノ終端ト屋内幹線トヲ電氣的完全ニ接續シ且電路中別ニ電球線ヲ保護スル自働遮斷器ヲ設クルコト

五　開閉器ハ塵埃ノ侵入セサル樣裝置シタル函内ニ藏ムルコト

六　點滅器附電球承口ヲ使用セサルコト

第六十二條　腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所ニ施設スル電氣工作物ハ瓦斯又ハ溶液ノ爲ニ侵サレサル樣適當ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

絶縁物ヲ害スル瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所ニ於テ裸電線ヲ使用スルトキハ展開セル場所ニ操業者ノ外容易ニ人ノ觸ルル虞ナキ樣施設スルコトヲ要ス

第六十三條　爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　電線ニハ七本以上ノ撚線ヨリ成ル心線ヲ有スル第四種絶縁電線ヲ使用シ之ヲ鎧裝スルカ又ハ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルコト但シ電燈吊管其ノ他之ニ類スル短小ナル管内ニ藏ムル電

線ニハ撚線ヲ使用セサルコトヲ得

二　電線及電氣機械器具相互ノ接合ハ電氣的完全ナラシメ且震動ノ爲弛緩セサル樣堅固ニ取附クルコト

三　電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

四　電動機ノ火花ヲ發スル部分ニハ特ニ保安裝置ヲ施スコト

五　自働遮斷器、開閉器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ之ヲ場內ニ施設セサルコト但シ堅牢ナル氣密函又ハ油液中ニ藏ムル等ノ方法ニ依リ保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　劇場內ニ於ケル電氣工作物ハ左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

一　道具類又ハ人ノ觸ルル虞アル場所及舞臺ニ施設スル電線ニハ第四種絕緣電線ヲ使用シ且外物ノ接觸ニ因ル損傷ヲ豫防スル爲適當ノ裝置ヲ施スコト

二　舞臺ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用シ且外物ノ損傷ヲ豫防スル爲皮革若ハ「ゴツク」ヲ以テ之ヲ鎧裝スルカ又ハ麻糸若ハ其ノ他ノ强靭ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノナルコト

三　舞臺ニ於ケル電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト

四　舞臺ニ於ケル屋內幹線ニハ專用ノ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スルコト

五　電球、電球線其ノ他ノ機械器具ハ可燃質物ト容易ニ接觸セサル樣適當ニ施設スルコト

第三節　臨時工事

臨時電燈工事

第六十五條　本則第百十條第一項ノ適當ノ施設トハ左記ニ準スル施設ヲ謂フ

一　乾燥セル屋內ニ於テ展開セル場所ニ第三種絕緣電線ヲ使用シテ施設スル電氣工作物ハ使用電壓二百五十「ヴオルト」以下ノモノニ限リ電線相互間及其ノ電線ト造營材トノ間ヲ離隔セシテ施設スルコト但シ特ニ電線ヲ損傷スルノ虞ナカラシ

メ且燃燒シ易キモノニ接觸セシメサルコト

二　檐下其ノ他家屋ノ外面ニ低壓電線ヲ取附クル場合ニハ電線相互間及電線ト造營材トノ間ノ距離ハ其ノ電線ノ種類ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ離隔スルコト

（一）電線相互間ノ距離

（イ）第二種絶縁電線ヲ使用スル場合　三寸以上

（ロ）第三種絶縁電線ヲ使用スル場合　一寸以上

（二）電線ト造營材ノ距離

（イ）第二種絶縁電線ヲ使用スル場合　一寸以上

（ロ）第三種絶縁電線ヲ使用スル場合　二分以上

（ハ）第四種絶縁電線ヲ使用スル場合　一分以上

三　道路ニ沿ヒ建設セル支持物ニ低壓電線ヲ取附クル場合ニハ道路ヲ横斷スル事ナク且地表上十尺以上ノ高サニ於テ前號ニ依リ施設スルコト

四　樹木、電柱、綠門其ノ他之ニ類スル物ニ取附クル低壓電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用シ且電線相互間及其

ノ電線ト之ヲ取附クル物トノ間ヲ離隔セシテ施設スルコト但シ樹木ノ如キ動搖ノ爲電線ヲ損傷スル虞アル物ニ取附クル場合ニハ其ノ損傷ヲ豫防スル爲適當ノ施設ヲ爲スコト

第一項第二號第三號ノ臨時工事ニシテ第二種絶縁電線ノ代リニ第三種絶縁電線ヲ、第三種絶縁電線ノ代リニ第四種絶縁電線ヲ使用スルトキハ施設後四月ヲ限リ使用スルコトヲ得

第一項第四號ニ於ケル第四種絶縁電線ハ二週間以内ノ臨時工事ニ限リ第三種絶縁電線ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第四節　電熱器具

電熱器具　第六十六條　電熱器具ニ關スル仕樣ハ左記ニ依ルコトヲ要ス

一　六〇〇「ワット」ヲ超過スル電熱器ニハ其ノ各極ニ自働遮斷器及開閉器ヲ裝置スルコト

六〇〇「ワット」以下ノ電熱器ハ電燈、電扇其ノ他ノ器具ト共同ノ自働遮斷器ニテ保護スルコトヲ得但シ其ノ

回路ノ總「ワット」數一「キロワット」以下ノ場合ニ限ル

二　電熱器ト可撓紐線トノ接續部分ハ熱ノ爲可撓紐線ヲ損傷セサル構造ノモノタルコト

三　二五〇「ワット」ヲ超過スル電熱器ニハ第二種又ハ第三種乙可撓紐線ノ編組被覆ノ下ニ厚サ三十「ミル」以上ノ石綿其ノ他ノ耐熱質物ノ編組ヲ施セル可撓紐線ヲ使用スルコト

四　固定セル電熱器具ハ周圍ノ可撓質物ト充分ナル距離ヲ離隔スルカ又ハ適當ナル耐熱裝置ヲ施スコト

五　百五十「ヴォルト」以上ノ電熱器ノ金屬製外函ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

六　保溫電熱器ニハ危險ナル程度ノ溫度上昇ヲナササル樣自働的ニ電路ヲ遮斷スル裝置ヲ施スコト

七　電氣熨斗又ハ之ニ類スル電熱器ニハ適當ノ架臺ヲ備フルコト

八　電熱器具ニハ其ノ使用電流電壓及製造者名ヲ記載セル銘板ヲ附スルコト

第三章　電氣鐵道

通信上ノ障碍防止

第六十七條　本則第百十三條第三項ノ適當ナル方法トハ左ノ如キモノヲ謂フ

一　强電流電線及弱電流電線相互間ノ距離ヲ增加スルコト

二　弱電流電線ノ地板及電氣鐵道ノ歸線相互間ノ距離ヲ增加スルコト

流線ト交叉又ハ接近工事

第六十八條　本則第百十九條ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準シ施設スルモノヲ謂フ

一　電車線ト弱電流電線トカ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉スルカ又ハ水平距離八尺以下ニ於テ並行スルトキハ電車線ノ上部ニ細則第二十六條ニ規定セル保護網ヲ設クルコト但シ水平距離四尺以上垂直距離其ノ一倍半以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　電車線ト弱電流電線トノ交叉角度カ四十五度以上ナルトキハ電車線ノ上部ニ細

則第二十七條ニ規定セル保護線ヲ設クルコト

三　保護網又ハ保護線ト電車線トノ上下距離及保護網又ハ保護線ト弱電流電線トノ上下距離ヲ二尺以上ト爲スコト但シ保護網ト弱電流電線トノ上下距離ハ該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得テ一尺迄短縮スルコトヲ得

弱電流電線ニ第四種絶縁電線又ハ「ビー、エス」四番ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルトキハ前項ノ裝置ヲ省略スルコトヲ得

不導體ノ離隔物

第六十九條　本則第百二十三條第一項第一號ノ特殊ノ施設トハ歸線ノ不絶縁部分ト地中管路トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニ非サレハ兩者間ヲ流通スルコトヲ能ハサラシムル設備ヲ謂フ

前項ノ不導體ノ離隔物トハ「アスファルト」及砂ヨリ成ル厚サ二寸以上ノ絶縁體ヲ「コンクリート」又ハ其ノ他ノ物質ヲ以テ機械的ニ堅牢ニ保護シ龜裂ヲ生セサル樣施設セル如キモノヲ謂フ

踏切工事

第七十條　本則第百二十五條ノ適當ナル施設トハ左ニ掲クル如キモノヲ謂フ

一　車馬ノ通行スル踏切ニ敷設セル軌條ハ他ノ部分ニ敷設セル軌條ヨリ電氣的ニ絶縁シ軌條ト大地トノ間ニ電位差ヲ存セシメサル樣施設セルモノ

第四章　標準仕樣

第一節　可撓紐線

第一種可撓紐線

第七十一條　第一種可撓紐線ハ錫鍍シタル「ビー、エス」三十番軟銅線十六本以上ヨリ成ル心線ヲ純護謨三十「パーセント」以上ヲ含有スル品質均一ナル護謨混合物ヲ以テ二十五「ミル」以上ノ厚サニ被覆シ且綿絲「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シタルモノニシテ左ノ各號ノ試驗ニ適合スルモノトス

一　浸水セサル狀態ニ於テ心線間ノ絶縁耐力ヲ交流三千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試驗シ一分間以上之ニ耐フルコト

二　長サ三尺ノ供試線ヲ二十四時間浸水シ心線間ノ絶縁耐力ヲ交流千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試驗シ一分間以上之ニ耐フルコト

第二種可撓紐線

第七十二條　第二種可撓紐線ハ錫鍍シタル「ビー、エス」三十番ノ軟銅線十六本以上ヨリ成ル心線ヲ純護謨三十「パーセント」以上ヲ含有スル品質均一ナル護謨混合物ヲ以テ二十五「ミル」以上ノ厚サニ被覆シ且護謨引木綿「テープ」ヲ纏捲スルカ又ハ綿絲ノ下打編組ヲ施シタルモノ

ヲ更ニ綿絲又ハ其ノ他ノ軟性纖維質物ト共ニ綿絲「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ圓壔形ニ緊密ニ編組シタルモノニシテ前條ノ絶縁耐力試驗ニ適合スルモノトス

第三種甲可撓紐線

第七十三條　第三種甲可撓紐線ハ第一種可撓紐線（綿絲ノ編組ヲ施シタルモノ）ノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

第三種乙可撓紐線

第七十四條　第三種乙可撓紐線ハ第二種可撓紐線（綿絲ノ編組ヲ施シタルモノ）ノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

護謨永久伸長率

第七十五條　細則第七十一條及第七十二條ノ護謨混合物ハ供試線ヨリ護謨混合物ヲ約四吋抽出シ其ノ中央ニ二吋ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十「パーセント」以下ナルモノトス

第二節　絶縁電線

第一種絶縁電線

第七十六條　第一種絶縁電線ハ電線ヲ品質善良且强靭ナル撚綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ一回緊密ニ編組シ且黑色ノ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ三十「ミル」以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノトス

第二種絶縁電線

第七十七條　第二種絶縁電線ハ電線ヲ品質

善良且強靭ナル撚綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ二回緊密ニ編組シ且黑色ノ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ六十「ミル」以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノトス

第一種及第二種絶縁電線ノ試驗

第七十八條　第一種及第二種絶縁電線ハ左ノ各號ノ試驗ニ適合スルモノトス

一　供試線ヲ白色艶紙上ニ載セ攝氏六十度ノ空氣中ニ三十分間放置スルモ紙面上ニ油狀ノ班點ヲ印セサルコト

二　供試線ヲ攝氏零下十五度ノ生寒劑中ニ三十分間浸漬スルモ混合物ハ其ノ表面ニ罅裂ヲ生セサルコト

三　「ビー、エス」四番以下ノ電線ニ在リテハ攝氏十度乃至三十度ノ溫度ニ於テ之ヲ其ノ仕上リ外徑ノ三倍ノ直徑ヲ有スル圓壔上ニ緊密ニ十回以上纏捲スルモ其ノ編組被覆物ニ異狀ナク混和物ハ粉末狀ヲ呈セス且離脫セサルコト

第三種絶縁電線

第七十九條　第三種絶縁電線ハ電線ヲ純護謨二十「パーセント」以上ヲ含有スル品質均一ナル護謨混合物ヲ以テ四十二「ミル」以上ノ厚サニ被覆シ更ニ二十「ミル」以上ノ綿絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シ且黑色ノ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ絶縁抵抗ハ十二時間浸水シ直流百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試驗シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一哩百「メグオーム」以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノトス

前項ノ護謨混合物ハ供試線ヨリ護謨混合物ヲ約四吋抽出シ其ノ中央ニ二吋ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十五「パーセント」以下ナルモノトス

第四種絶縁電線

第八十條　第四種絶縁電線（六百「ヴォルト」以下ニ使用スルモノ）ハ電線ヲ純護謨三十「パーセント」以上ヲ含有スル品質均

一ナル白黑二層ノ護謨混合物ヲ以テ四十二「ミル」以上ノ厚サニ被覆シ更ニ十「ミル」以上ノ綿「テープ」ヲ重覆纏捲シタル後二十「ミル」以上ノ綿絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シ且赤色ノ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ絶縁抵抗ハ十二時間浸水ノ後直流百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試驗シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一哩二百五十「メグオーム」以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノトス

前項ノ護謨混合物ハ供試線ヨリ護謨混合物ヲ約四吋抽出シ其ノ中央ニ二吋ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十「パーセント」以下ナルモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣工事規程ハ之ヲ廢止ス

電氣事業法施行規則第十二條

第十八條又ハ第十九條ニ依リ遞信大臣ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ申請事項中本令ニ依リ遞信大臣又ハ遞信局長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ施設シ得サル事項又ハ之ニ關係スルモノアルトキハ其ノ申請書中ニ特ニ其ノ旨ヲ明記スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ本令ニ依リ別ニ認可ヲ受クルコトヲ要セス

本令ニ依リ遞信大臣又ハ遞信局長ノ認可ヲ得ムトスルトキハ其ノ事由、工事方法及關係圖面ヲ具シ申請スル事ヲ要ス

但シ遞信大臣ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ副本ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ

本令施行ノ際現ニ使用シ又ハ使用シ得ヘキ電氣工作物ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ左ノ區別ニ依リ改修スルコトヲ要ス

一　本則第三十二條、第三十三條第三號、第三十五條、第五十七條、第七十四條、第八十二條及第百十一條ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ壹年內

二　本則第十三條、第三十七

條第四號、第五十二條、第八十五條、第九十二條第一號及第二號(イ)、第九十四條、第百八條ノ規定ニ牴觸スルモノ竝電氣工事規程第五十九條ノ規定ニ依リ施設セル七千「ヴオルト」以下ノ特別高壓架空電線路ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三年內

三　絕緣電線ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノ及本則第九十二條第二號(ロ)及第百三條ノ規定ニ牴觸スルモノハ改築ノ際

前項第一號及第二號ノ工作物ハ其ノ改修期間內ト雖改築ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ規定ニ依リ施設スルコトヲ要ス

本令施行前ニ於テ工事施行ノ認可ヲ得タルモノハ本令ノ規定ニ依リ難キ已ムヲ得サル事由アルモノニ限リ更ニ遞信大臣ノ認可ヲ得テ曩ニ認可ヲ得タル工事方法ニ依リ施設スルコトヲ得但シ其ノ電氣工作物ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ準用ス

附　錄

電氣工事規程改正要旨

(大正八年十月十三日)

現行遞信省令電氣工事規程ハ明治四十四年ノ制定ニ係ルモノニシテ爾後數度改訂ヲ加ヘタルモノナルモ電氣學理及技術ノ進步又ハ事業ノ發達ニ伴ヒ改正スベキ點尠カラス依テ遞信省ニ於テ昨年電氣工事規程改正調査委員會ヲ組織シ各地帝國大學ノ教授民間大會社ノ技師長及遞信省ノ專門技術者ヲ委員トシ改正スベキ主要條項ヲ審議シ其決議ニ基キ之ニ從來內規又ハ處理實例トシテ實施セルモノヲ增補シテ一ノ規程トシ之ヲ電氣工作物規程ト改稱シ今般之ヲ發布實施セルナリ

本改正規程ハ之ヲ二編ニ分チ第一編ヲ本則トシ第二編ヲ細則トセリ、第一編本則ハ百二十九ケ條ヨリ成リ之ヲ三章ニ分類セリ、第二編細則ハ八十ケ條ヨリ成リ之ヲ四章ニ分類セリ、此細則ニ於テハ本則ニ於テ定メタル各種施設ノ規準及意義ヲ明示シ又ハ電線若ハ電氣器具ノ標準仕樣ヲ定メ且ツ本則ヲ補充セルモノニシテ之ニ規定セル事項ハ

附錄

本則ニ規定セル事項ニ比シ幾分輕微ナルモノ又ハ詳細ナル施設若ハ標準又ハ電氣工業ノ進歩ニ伴ヒ屢變更改正ノ必要ヲ生シ得ベキモノヲ集輯セルモノナリ

本改正ノ主要ナルモノハ絕緣電線及可撓組織ノ仕樣ヲ改メテ電線ノ品質ヲ高メ又ハ屋內、屋外、木製線樋內若ハ金屬管內ニ施設スル絕緣電線ニ通シ得ベキ安全電流ヲ制定シテ一般從業員ノ作業ニ便シ又ハ引込線ノ地表上ノ高サヲ輕減シ以テ實際ニ適合セシメ架空特別高壓電線路ノ建設工事方法ヲ詳細ニ規定シ以テ他ノ工作物ニ對スル距離ノ制定ヲ輕減シ又ハ特別高壓電氣ガ電話線ニ對スル誘導作用防止ノ制限ヲ明確ニ規定シ以テ特別高壓電線路建設ニ便シ又ハ電話線ト交叉スル電力用引込線ニハ第三種絕緣電線ヲ使用スルコトニ改メ以テ兩電線ノ混觸ニ依ル危害ヲ防止シ或ハ看板廣告塔ニ於ケル工事方法、金屬管工事又ハ電熱器ノ仕樣等ヲ新ニ制定シテ以テ電氣事業ノ進歩ニ適應シタル如キハ其ノ主要ナルモノナリ

大正八年十一月五日印刷
大正八年十一月十日發行

定價金貳拾五錢

編輯兼發行者　東京市京橋區南金六町六番地　加藤木重敎
印刷者　東京市京橋區弓町十二番地　武井万二
印刷所　東京市京橋區弓町十二番地　千代田印刷株式會社

發行所
東京市京橋區南金六町六番地　電友社　電話銀座長二四、八五七　振替貯金口座東京二二〇三
大阪市北區堂島中二丁目三番地　同大阪支社　電話北八二八八　振替貯金口座大阪三三五四八

eleven
eight
nine
twelve
three & four
thirteen
fourteen
fifteen
sixteen
seventeen